

庄 原 市
男女共同参画に関する意識調査
報 告 書

平成28年10月

目 次

I 調査の概要及び回答者の属性	1
1 調査の概要	1
2 回答者の属性（問1～8）	2
II 調査結果	6
男女平等意識について	6
1 男女平等意識について（問9）	6
職業生活について	13
2 女性の就労について（問10）	13
3 女性の就労に必要なこと（問11）	14
4 育児休業・介護休業について（問12）	15
5 職場環境について（問13）	17
6 仕事との生活を両立するために必要なこと（問14）	23
7 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について（問15）	24
8 パワー・ハラスメントについて（問16）	25
9 マタニティ・ハラスメントについて（問17）	26
家庭生活と男女の役割について	27
10 結婚と家庭に関する考え方（問18）	27
11 家庭内の仕事の担当（問19）	36
地域活動への参加等について	43
12 参加している地域活動（問20）	43
13 地域活動に参加するため力をいれるべこと（問21）	44
ドメスティック・バイオレンス（DV）について	45
14 ドメスティック・バイオレンス（DV）の問題点（問22）	45
15 暴力（ドメスティック・バイオレンス）（問23）	46
16 ドメスティック・バイオレンスを経験したり、見聞きしたりしたこと（問24）	55
17 受けたドメスティック・バイオレンス（問25）	56
18 相談経験（問26）	59
19 相談相手（問27）	60

20	相談しなかった理由（問 28）	61
21	ドメスティック・バイオレンス（DV）を防ぐための取組（問 29）	62
	男女共同参画社会について	63
22	男女共同参画社会に関連する用語の認知状況（問 30）	63
23	男女共同参画に関連する取組（問 31）	67

I 調査の概要及び回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、市民の皆様の男女共同参画に関する意識やご意見等をおうかがいし、計画策定のための基礎的な資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査実施方法

調査は、以下の方法により実施しました。

1 調査対象者と抽出方法	18歳以上の市民の方から無作為に抽出した2,000人
2 調査方法	郵送調査法
3 調査期間	平成28年8月～9月
4 回収状況	配布数 2,000世帯 回収数 866通 回収率 43.3%

(3) 集計にあたっての注意点

グラフは、パーセントで示しています。

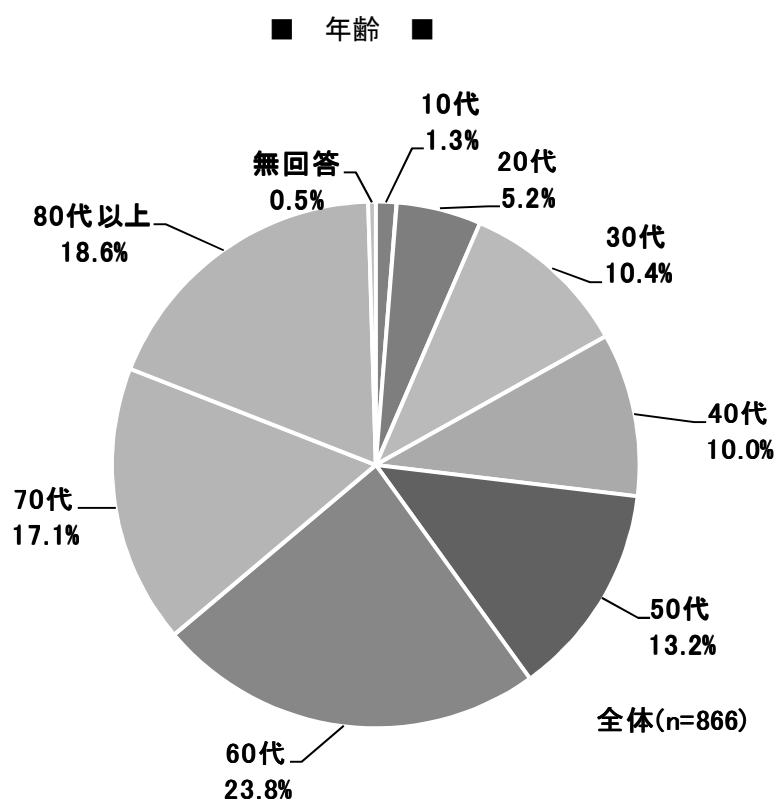
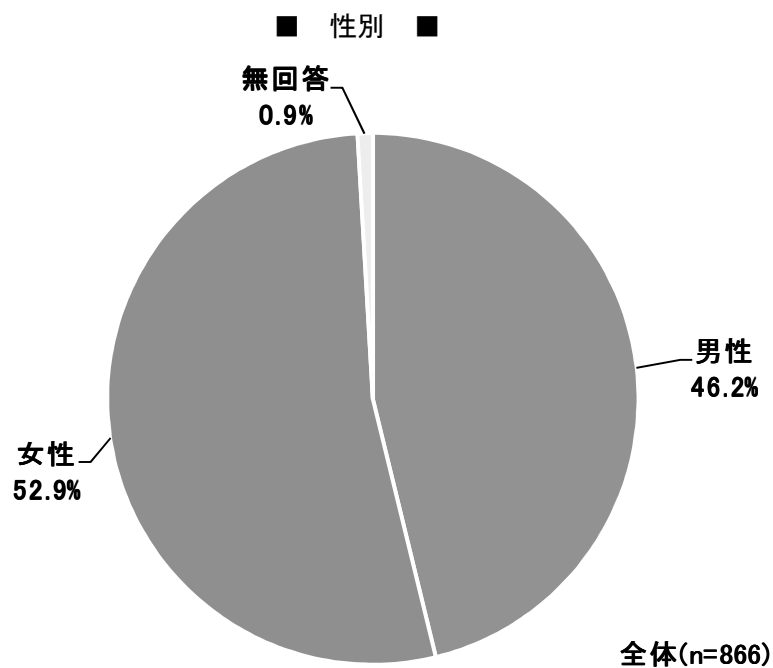
グラフ中に表示している「n=」は、パーセントを計算するときの母数となるサンプル数（回答者数）を示しています。

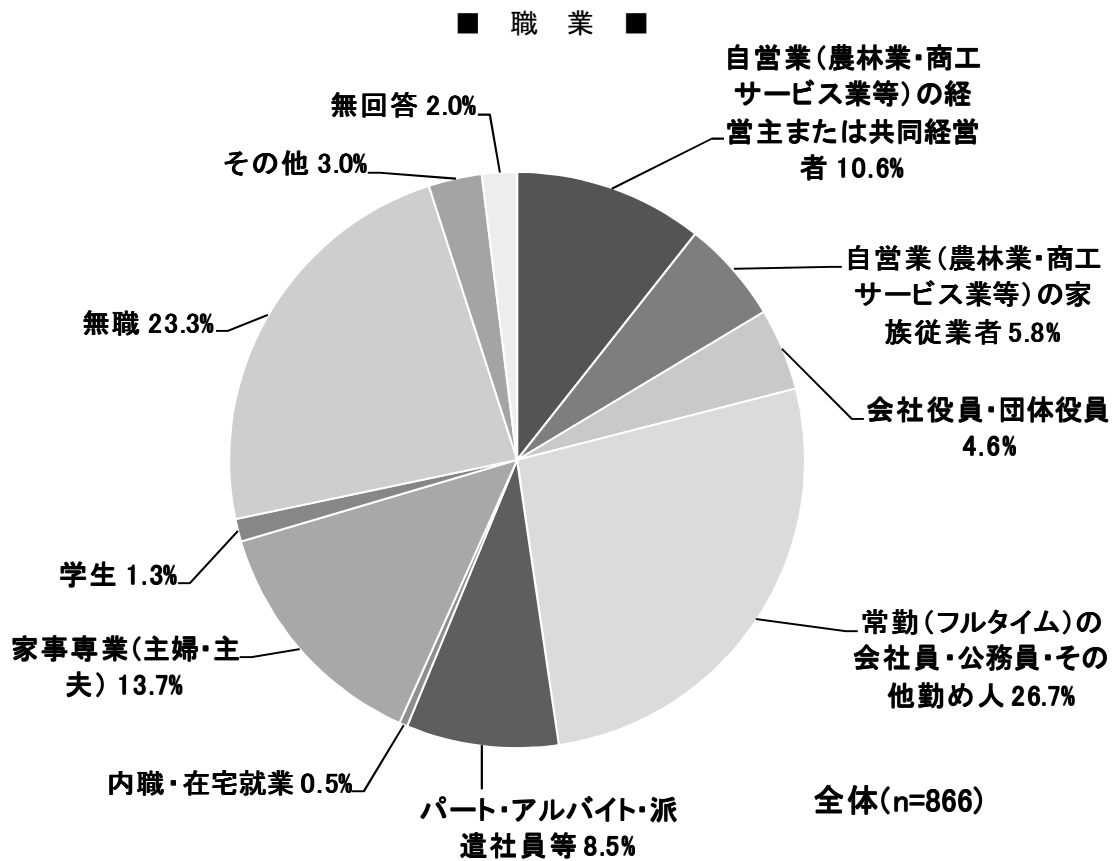
算出されたパーセントは、小数第二位を四捨五入して、小数第一位までの表示としているため、その合計が必ずしも100.0%にならない場合もあります。

また、複数回答で質問している調査項目においては、その合計は100.0%を超えます。

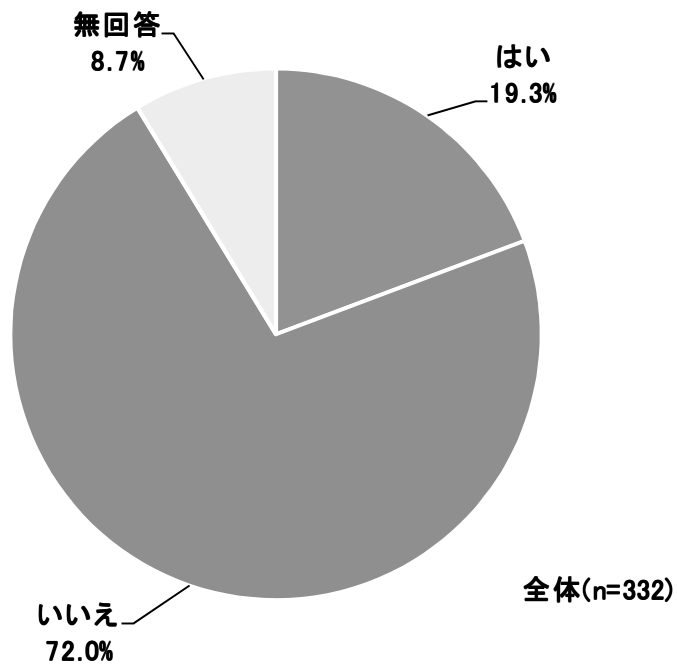
2 回答者の属性（問1～8）

有効回答のあった866人の属性は、以下のとおりです。



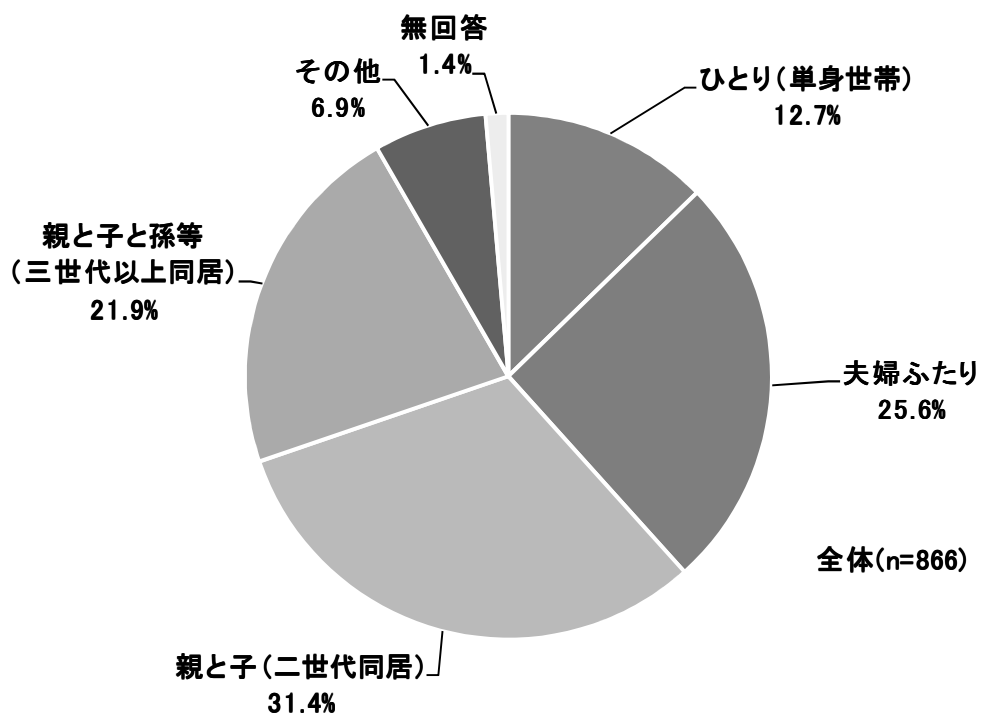


■ 将来的に仕事に就く予定、就労意向 ■

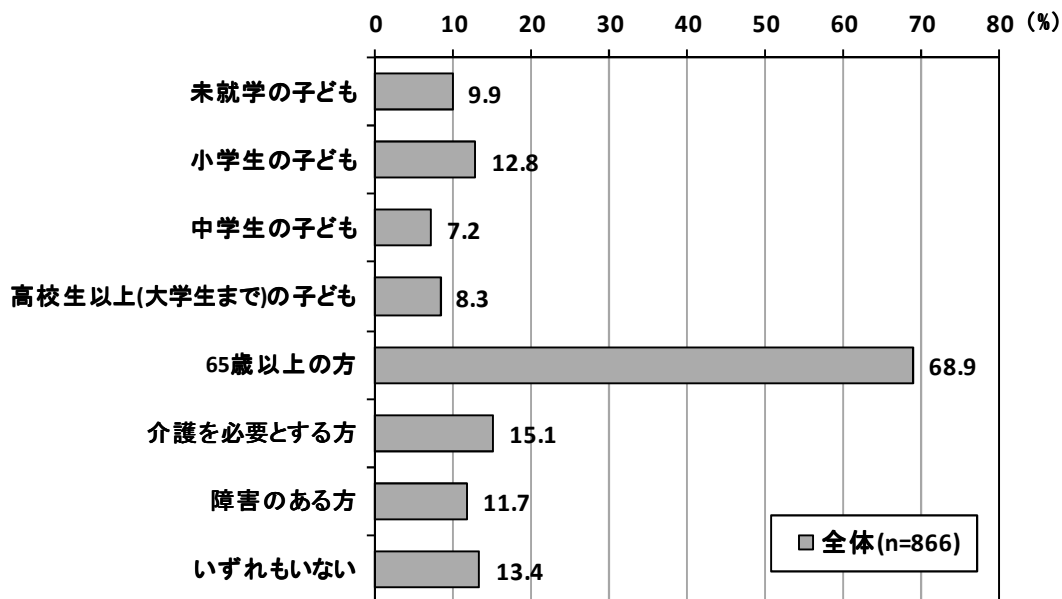


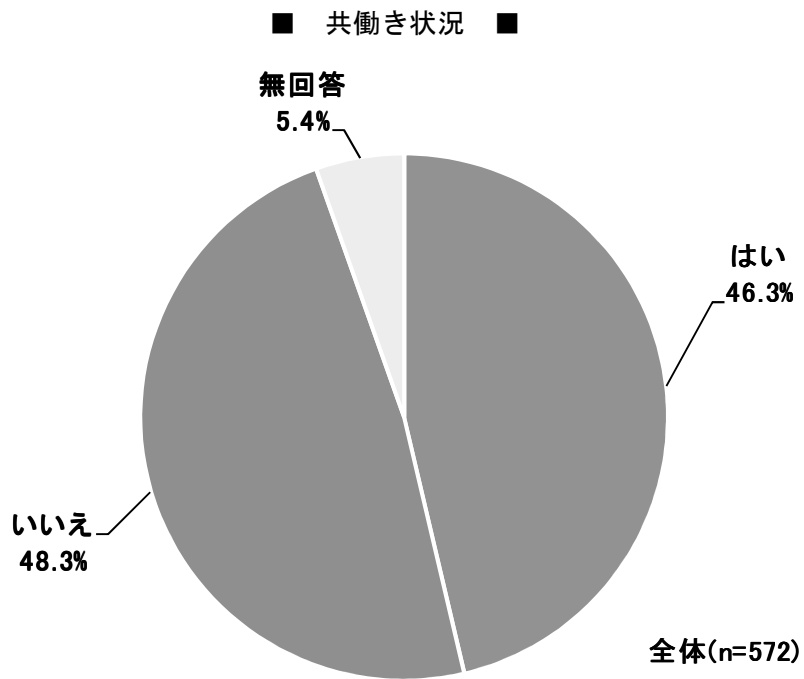
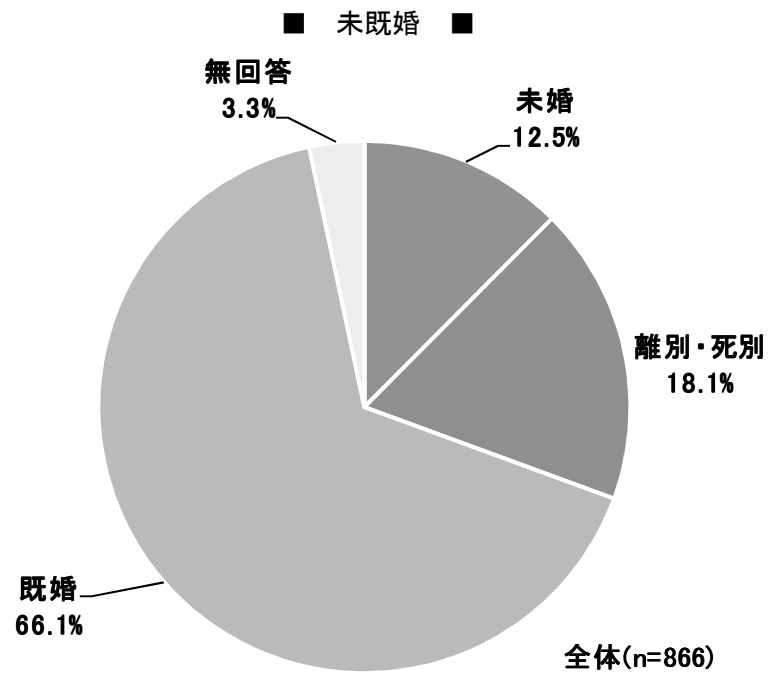
※自営業以外の人のみ回答

■ 同居家族構成 ■



■ 同居家族 ■





※既婚者のみ回答

Ⅱ 調査結果

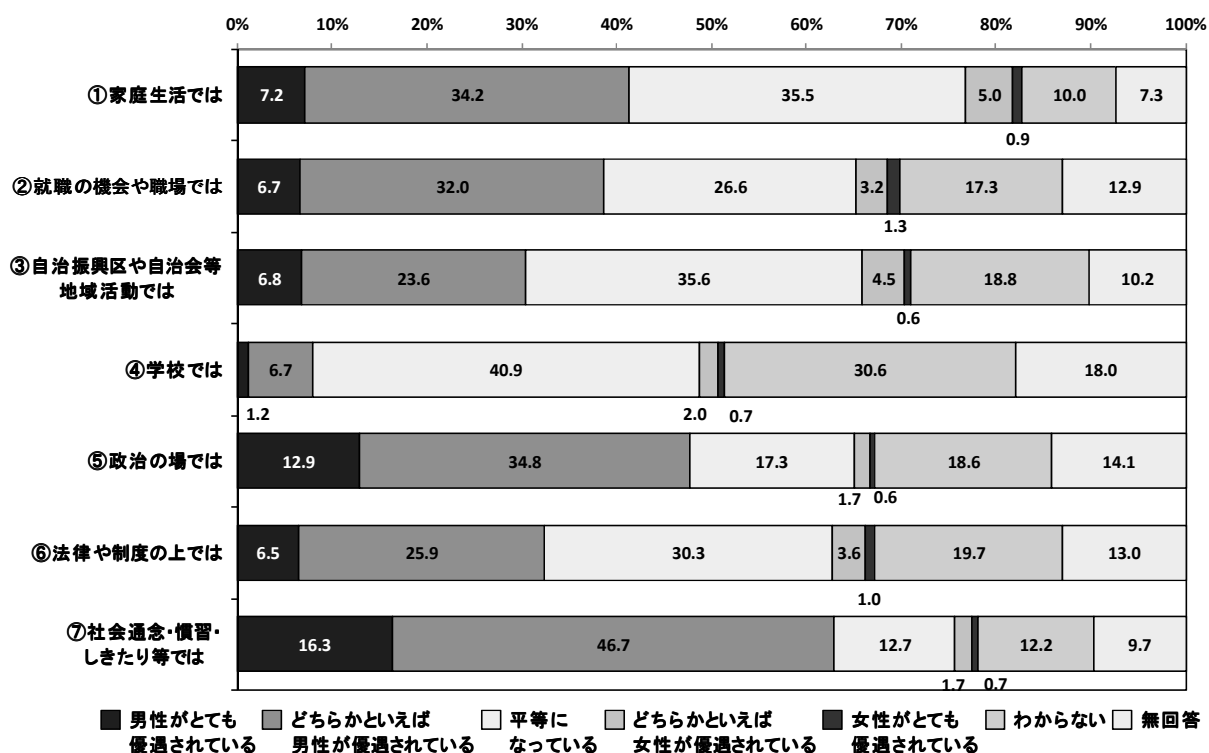
男女平等意識について

1 男女平等意識について（問9）

身近での男女の地位に対する意識をみると、「平等になっている」が最も多いのは『学校』40.9%で、男女どちらかが優遇されているとする人は1ケタ台の割合となっています。

これら以外の意識では、男性が優遇されているという意識が強くなっています。男性優遇意識（「男性がとても優遇されている」+「どちらかといえば男性が優遇されている」）が最も大きいのは、『社会通念・慣習・しきたり等』の63.0%です。次いで、『政治の場』が47.7%、『家庭生活』が41.4%となっています。

問9. 次の項目について、あなたの身近では、男女の地位は平等になっていると思いますか。①から⑦のそれぞれについてお答えください。（〇印1つずつ）



【属性別特徴】

- 男性優位度という視点からみると、男性より女性、特に女性の若年層、中年層で男性の方が優遇されているという意識が強くなっています。
男性優位度は、『社会通念・慣習・しきたり等』は男性中年、女性若年、女性中年、『政治の場』は女性若年、女性中年での優位度が特に強くなっています。
- 男女平等度という視点からみると、全体的に男性の方が「平等になっている」という意識が強くなっており、男女の意識の差が顕著にみられます。

■ 属性別にみた男女平等意識 ■

【男性優位度】

		サンプル数	家庭生活	場就職の機会や職	治自治等振興地域活や動自	学校	政治の場	法律や制度の上	習社会通念・しきたり・慣等
全体		866	35.5	34.2	25.3	5.2	45.4	27.8	60.6
性別	男性	400	30.2	31.0	19.3	3.0	46.1	23.5	59.5
	女性	458	40.3	37.3	30.8	7.0	45.1	31.5	62.0
年齢	男性若年	70	12.9	20.1	22.9	7.1	38.5	8.6	41.4
	男性中年	94	32.9	30.8	21.2	2.1	42.5	21.3	71.2
	男性高年	236	34.3	34.3	17.4	2.1	49.6	28.8	60.2
別	女性若年	75	37.4	45.4	32.0	1.3	60.0	37.4	74.7
	女性中年	107	47.6	44.9	35.5	8.3	57.1	43.0	77.6
	女性高年	275	38.2	32.0	28.4	7.7	36.4	25.1	52.4

(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

※男性優位度＝「男性がとて優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」－
（「どちらかといえば女性が優遇されている」＋「女性がとて優遇されている」）

【男女平等度】

		サンプル数	家庭生活	場就職の機会や職	治自治等振興地域活や動自	学校	政治の場	法律や制度の上	習社会通念・しきたり・慣等
全体		866	35.5	26.6	35.6	40.9	17.3	30.3	12.7
性別	男性	400	42.0	31.5	44.3	44.8	21.0	39.0	16.8
	女性	458	29.9	22.7	28.6	38.2	14.4	23.1	9.4
年齢	男性若年	70	50.0	37.1	35.7	48.6	15.7	31.4	21.4
	男性中年	94	33.0	36.2	39.4	52.1	27.7	41.5	12.8
	男性高年	236	43.2	28.0	48.7	40.7	19.9	40.3	16.9
別	女性若年	75	34.7	33.3	29.3	66.7	20.0	26.7	8.0
	女性中年	107	35.5	28.0	28.0	53.3	15.9	22.4	6.5
	女性高年	275	26.5	17.8	28.7	24.7	12.4	22.5	10.9

(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

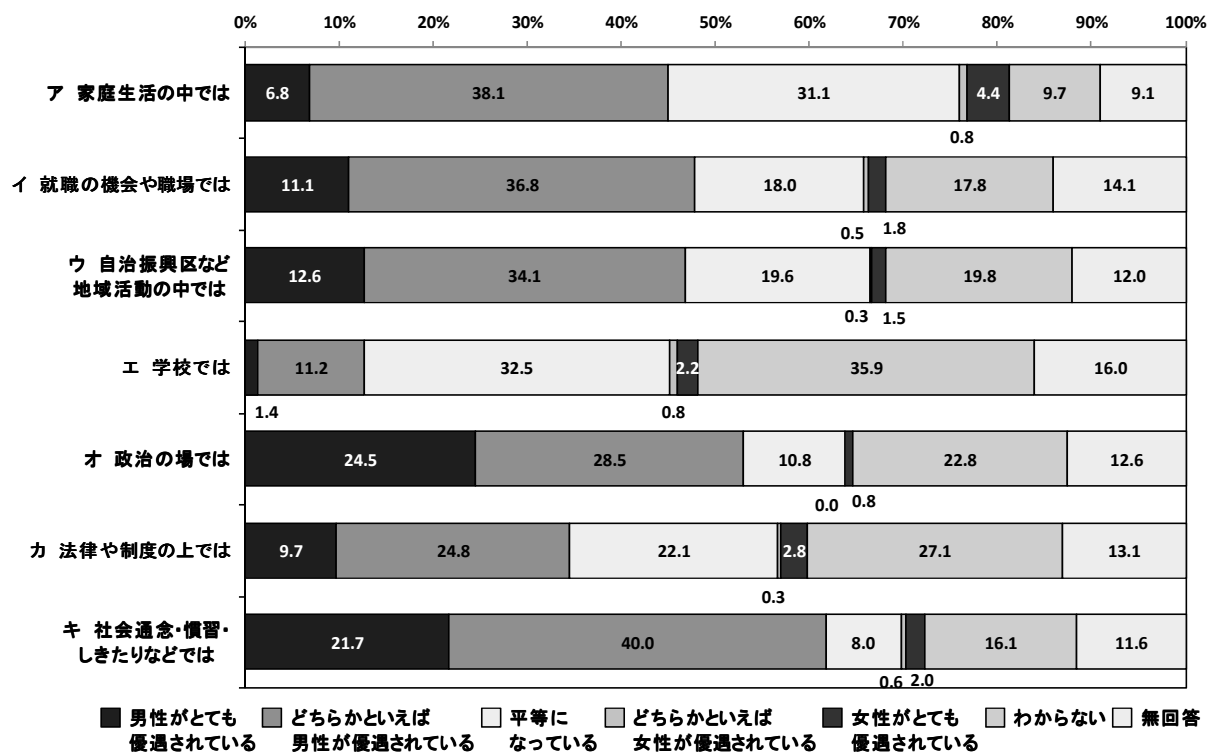
※男女平等度＝「平等になっている」

(注 1) 年齢別は以下のように集約しています。(以下同様)

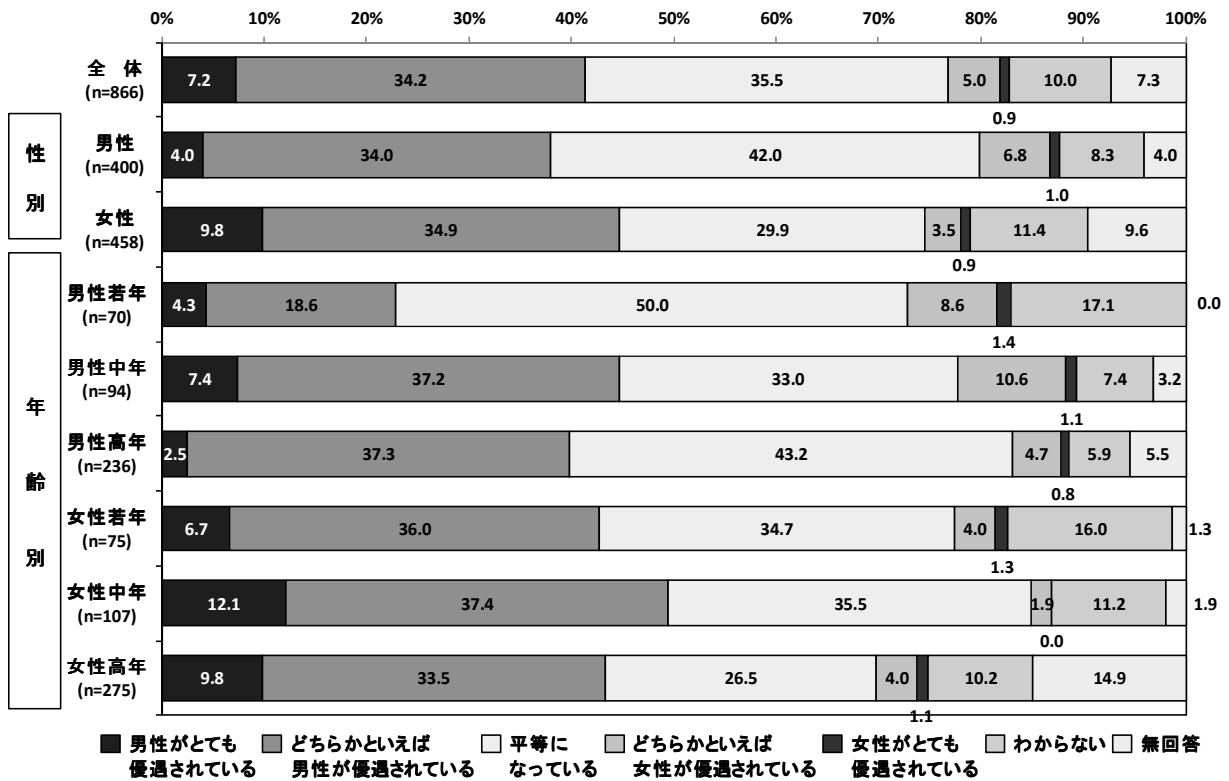
- ・男性若年→男性の 30 代以下
- ・男性中年→男性の 40 代と 50 代
- ・男性高年→男性の 60 代以上
- ・女性若年→女性の 30 代以下
- ・女性中年→女性の 40 代と 50 代
- ・女性高年→女性の 60 代以上

(注 2) 性別、年齢を回答していない人がいるために、属性別の図表では、属性別のサンプル数の合計が全体のサンプル数と一致しません。(以下同様)

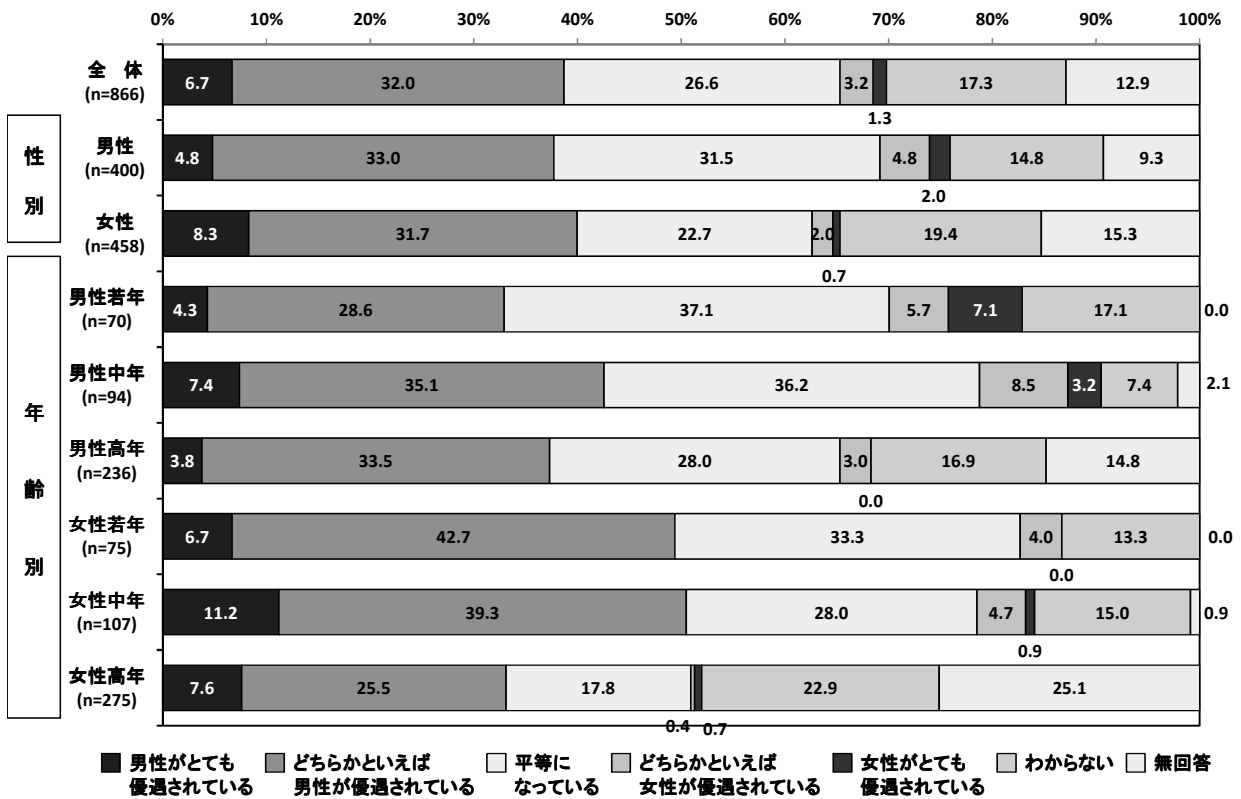
《 参考：前回（平成 23 年）調査結果 》



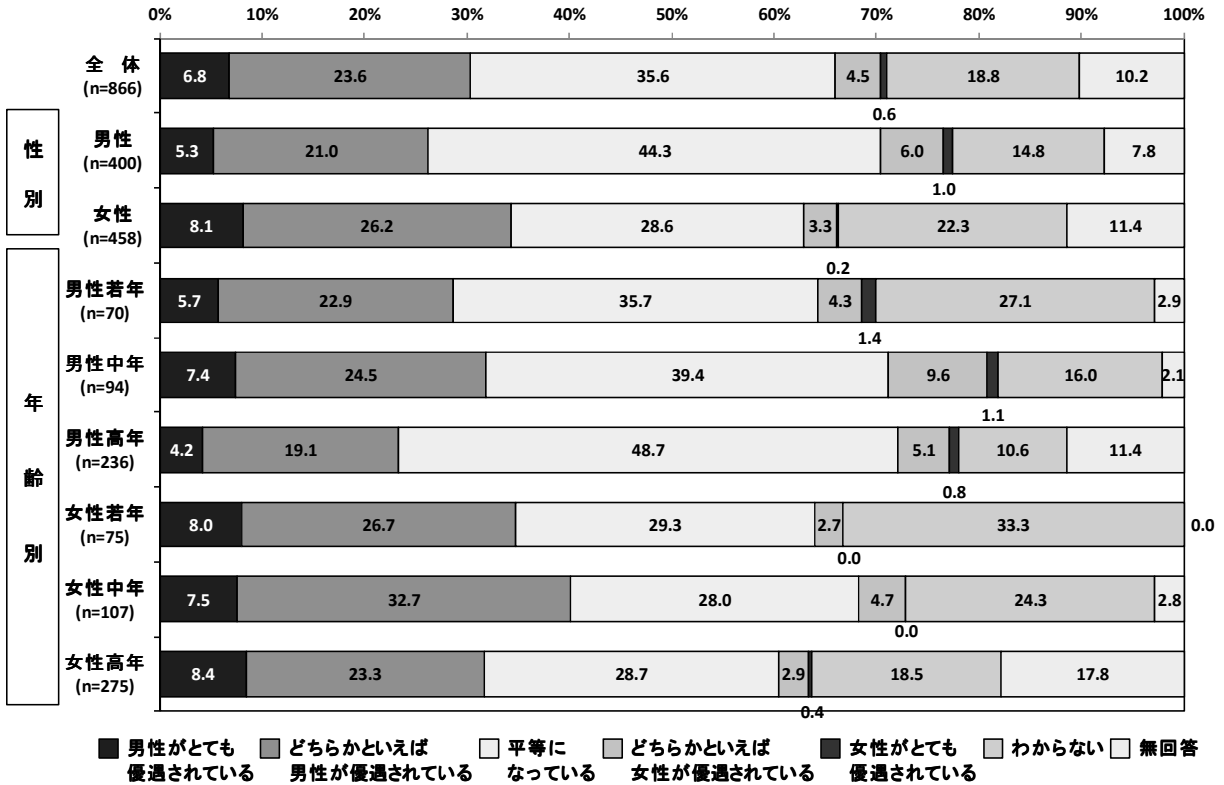
■ ①家庭生活では ■



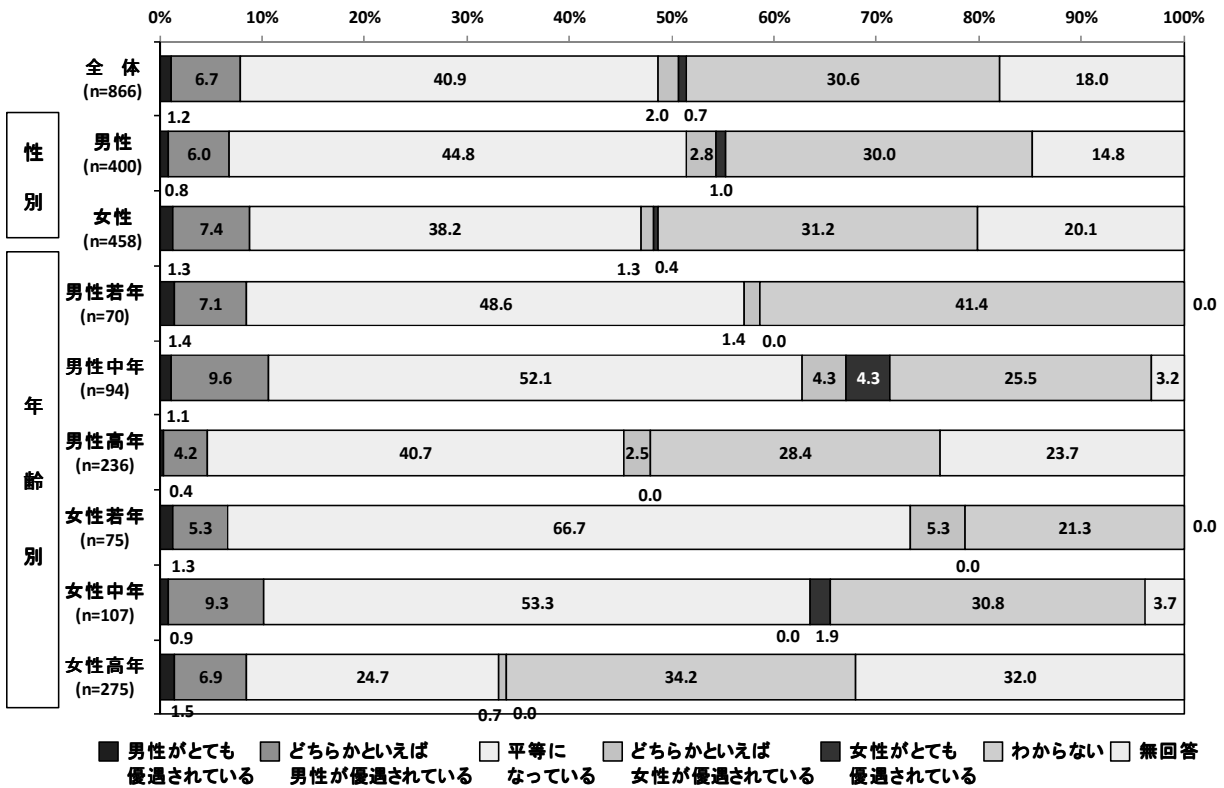
■ ②就職の機会や職場では ■



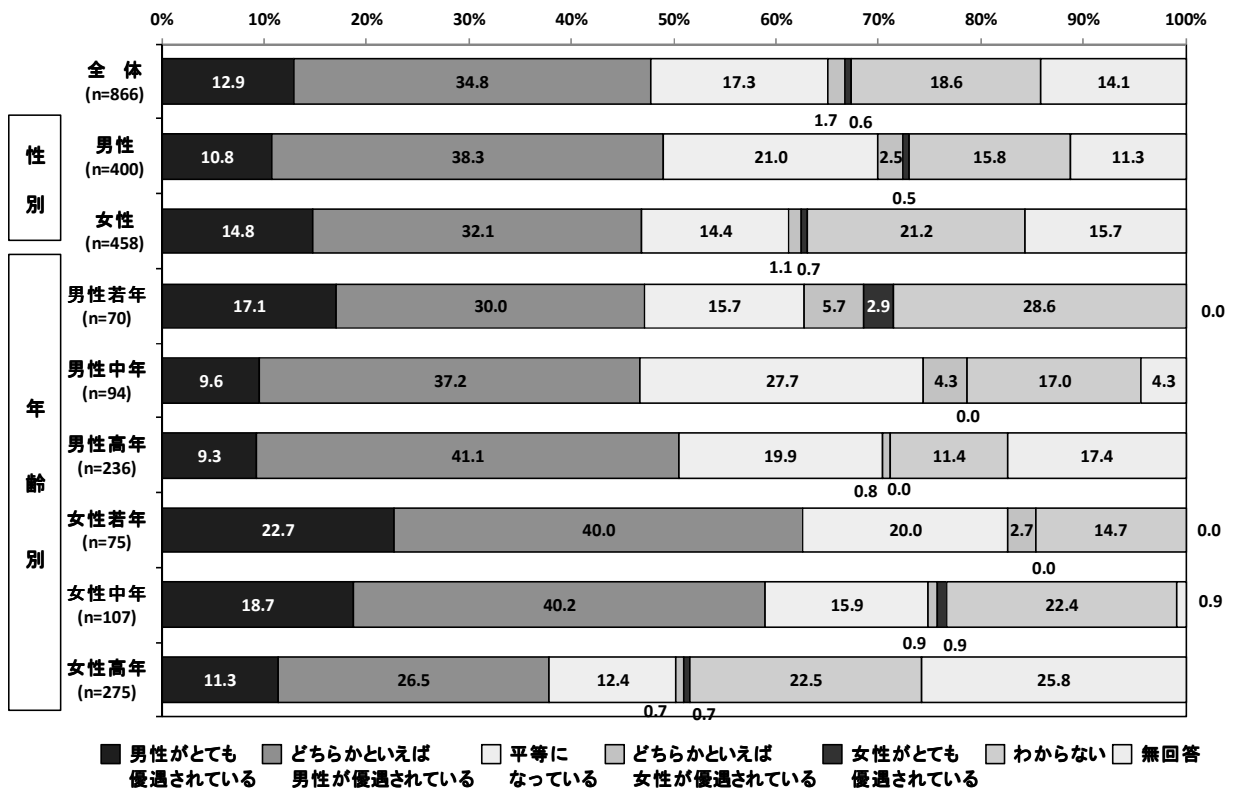
■ ③自治振興区や自治会等地域活動では ■



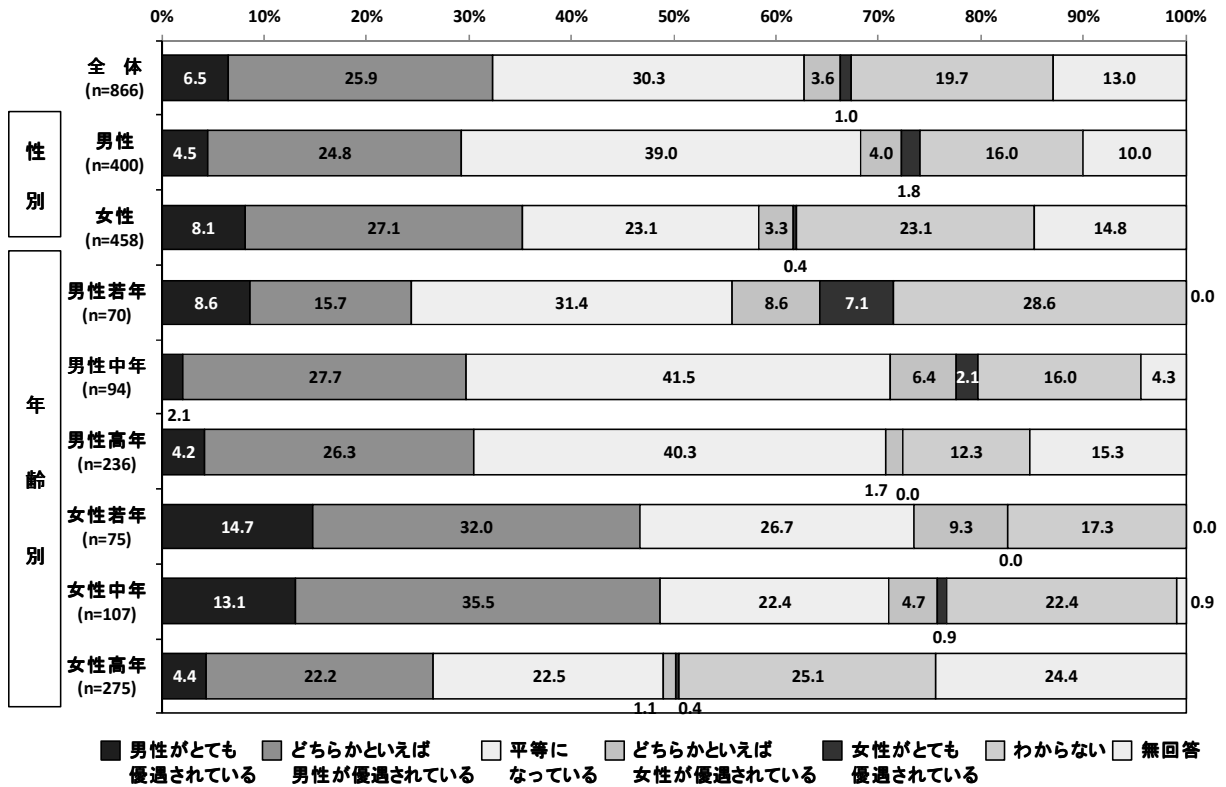
■ ④学校では ■



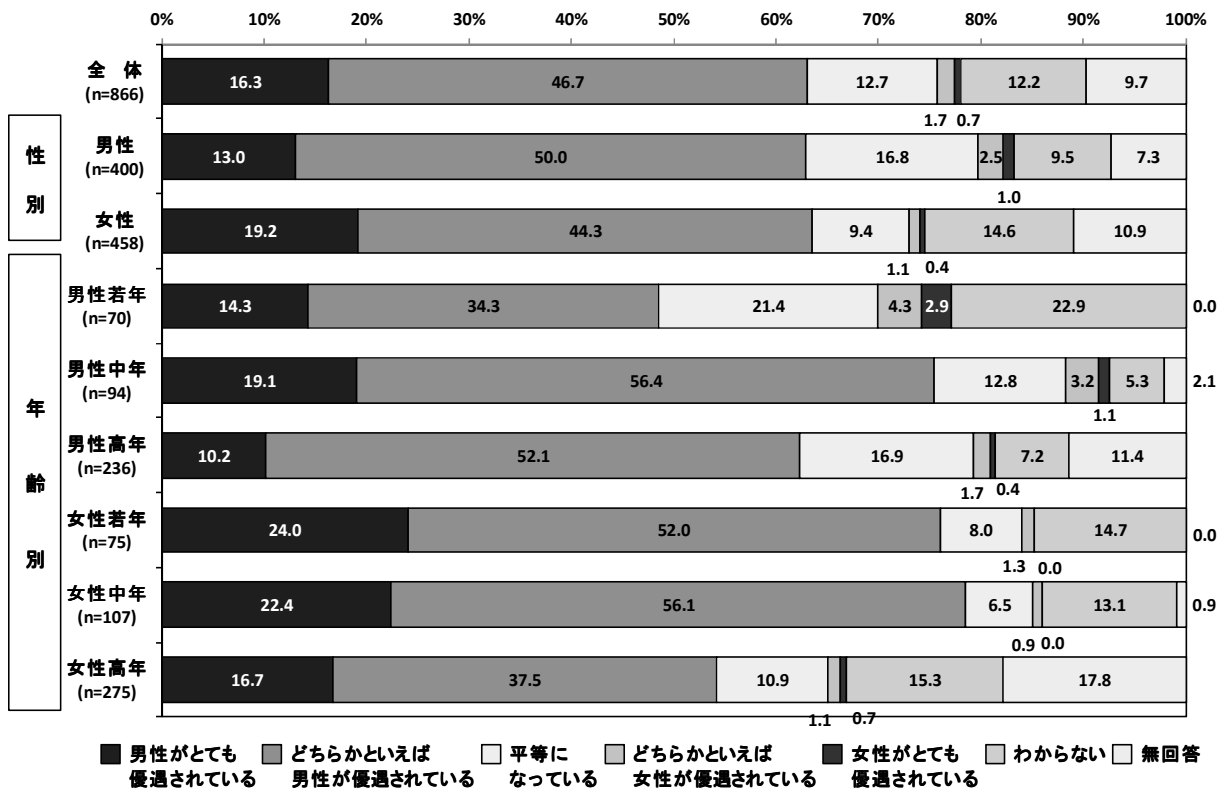
■ ⑤政治の場では ■



■ ⑥法律や制度の上では ■



■ ⑦社会通念・慣習・しきたり等では ■



職業生活について

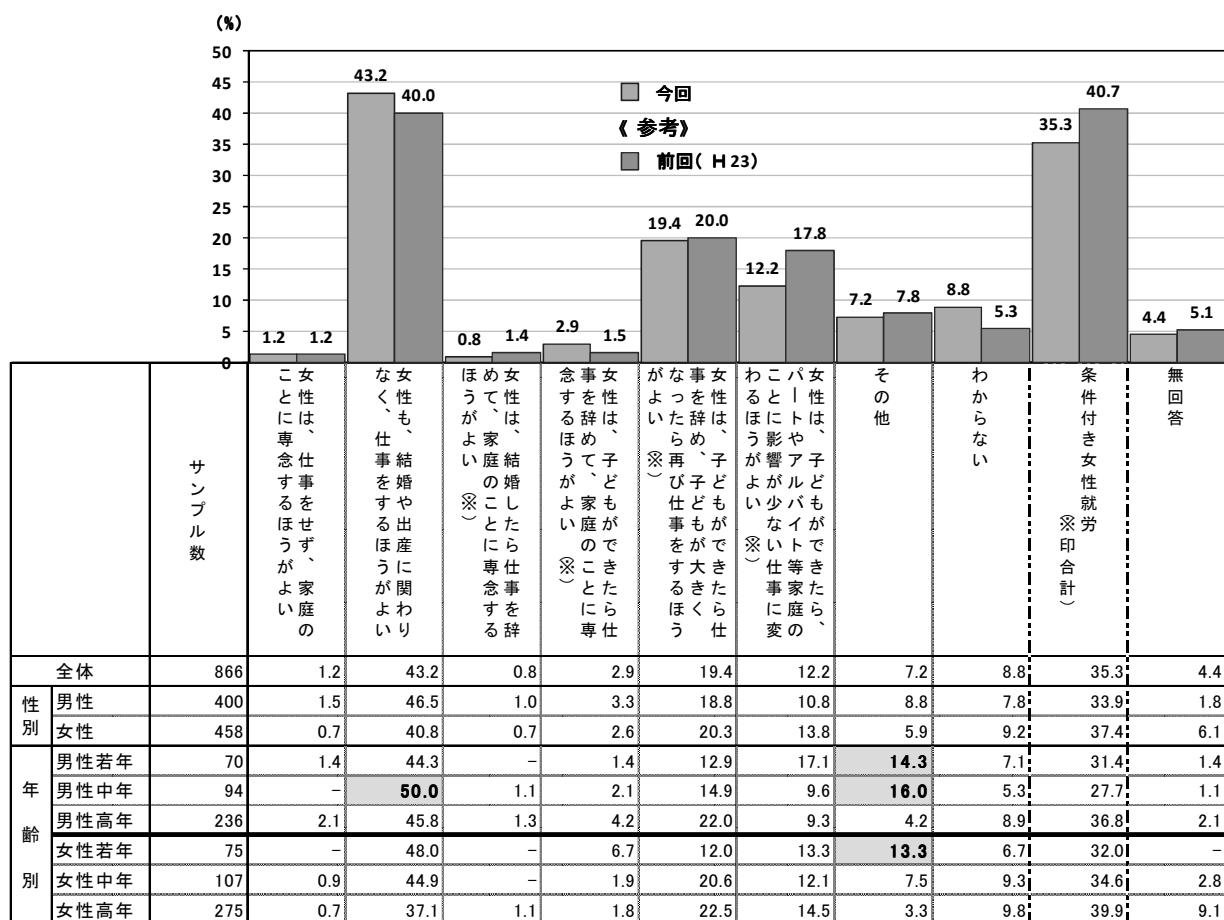
2 女性の就労について（問 10）

女性が仕事をするということについてみると、「女性も、結婚や出産に関わりなく、仕事をするほうがよい」が43.2%と圧倒的に多くなっています。ただ、「女性は、子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事をするほうがよい」は19.4%ですが、結婚や子育てなどを理由に女性の仕事の仕方に一定の条件をつける意識（※印の項目）は、合計すると35.3%となります。

【属性別特徴】

- 性別にみると、「女性も、結婚や出産に関わりなく、仕事をするほうがよい」は、男性の46.5%に対し、女性は40.8%と男性よりも少なくなっています。条件付き女性就労がわずかですが、男性より女性の方が多くなっています。
- 年齢別にみると、「女性も、結婚や出産に関わりなく、仕事をするほうがよい」は、女性では年齢の低いほど多く、女性若年では48.0%と半数弱を占めています。

問 10. あなたは、女性が仕事をするということについて、どのように思いますか。（○印1つ）



(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの(「無回答」を除く)

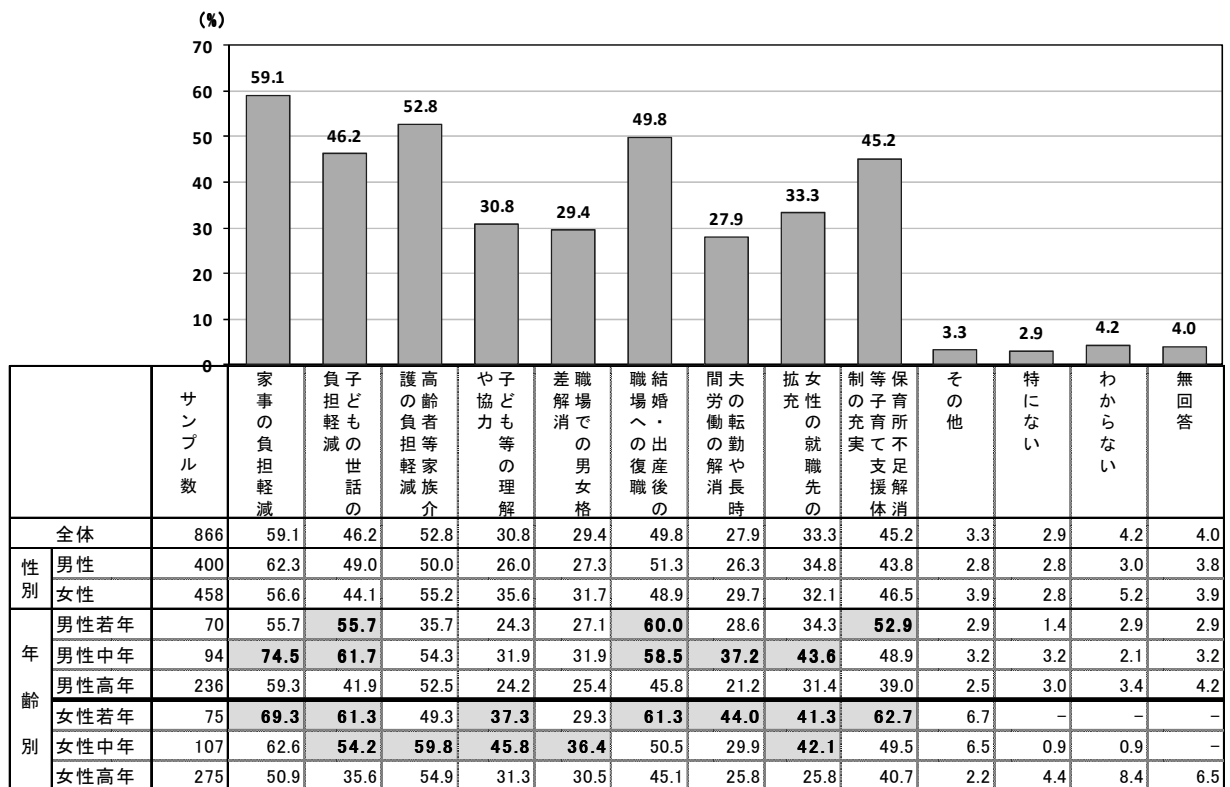
3 女性の就労に必要なこと（問 11）

女性が働く上で必要なこととしては、「家事の負担軽減」（59.1%）と「高齢者等家族介護の負担軽減」（52.8%）の2つが半数を超えています。次いで「結婚・出産後の職場への復職」（49.8%）、「子どもの世話の負担軽減」（46.2%）、「保育所不足解消等子育て支援体制の充実」（45.2%）となっています。

【属性別特徴】

- 年齢別にみると、女性若年層では、「家事の負担軽減」（69.3%）は70%近くに達し、加えて「保育所不足解消等子育て支援体制の充実」（62.7%）や「子どもの世話の負担軽減」（61.3%）、結婚・出産後の職場への復職」（61.3%）も60%を超えています。
また、女性中年層では「高齢者等家族介護の負担軽減」が59.8%と多くなっている点も注目されます。

問 11. あなたは、女性が働く上で、どのようなことが必要だと思いますか。（〇印いくつでも）



(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの（「無回答」を除く）

4 育児休業・介護休業について（問 12）

育児休業（産休を除く）を「取得したことがある」は7.5%、介護休業では3.0%となっています。

【属性別特徴】

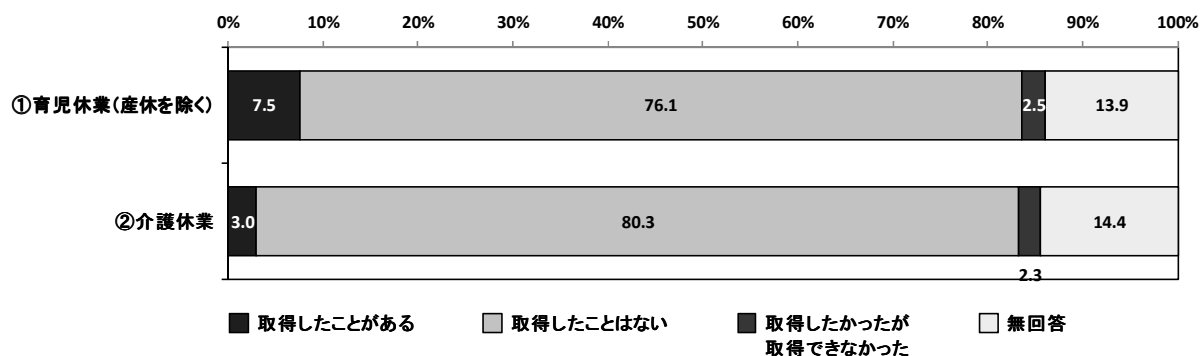
①育児休業について

- 性別にみると、「取得したことがある」は、女性が11.6%に対し、男性は3.0%にとどまっています。
- 年齢別にみると、「取得したことがある」は、女性若年層で24.0%、女性中年層で17.8%と多くなっています。その他の年齢層では1ケタ台にとどまっています。

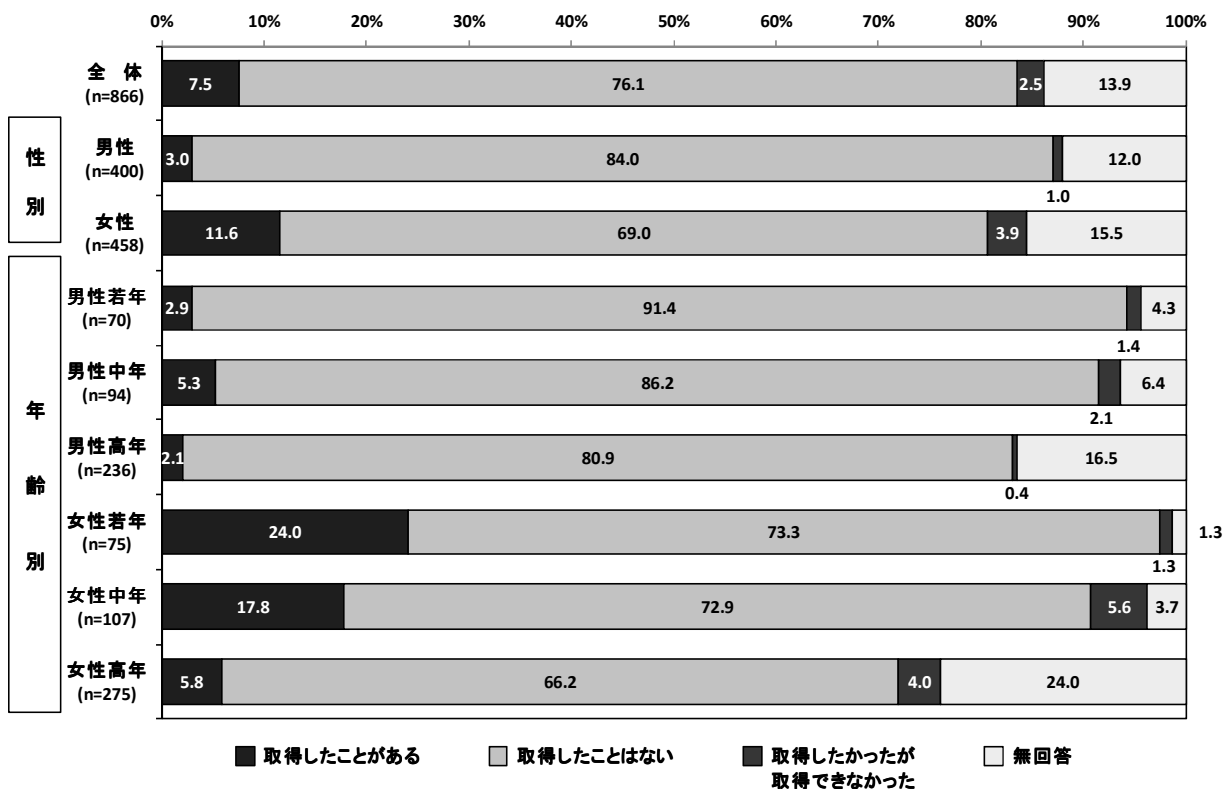
②介護休業について

- 性別、年齢別にみても、属性間に顕著な差はみられません。

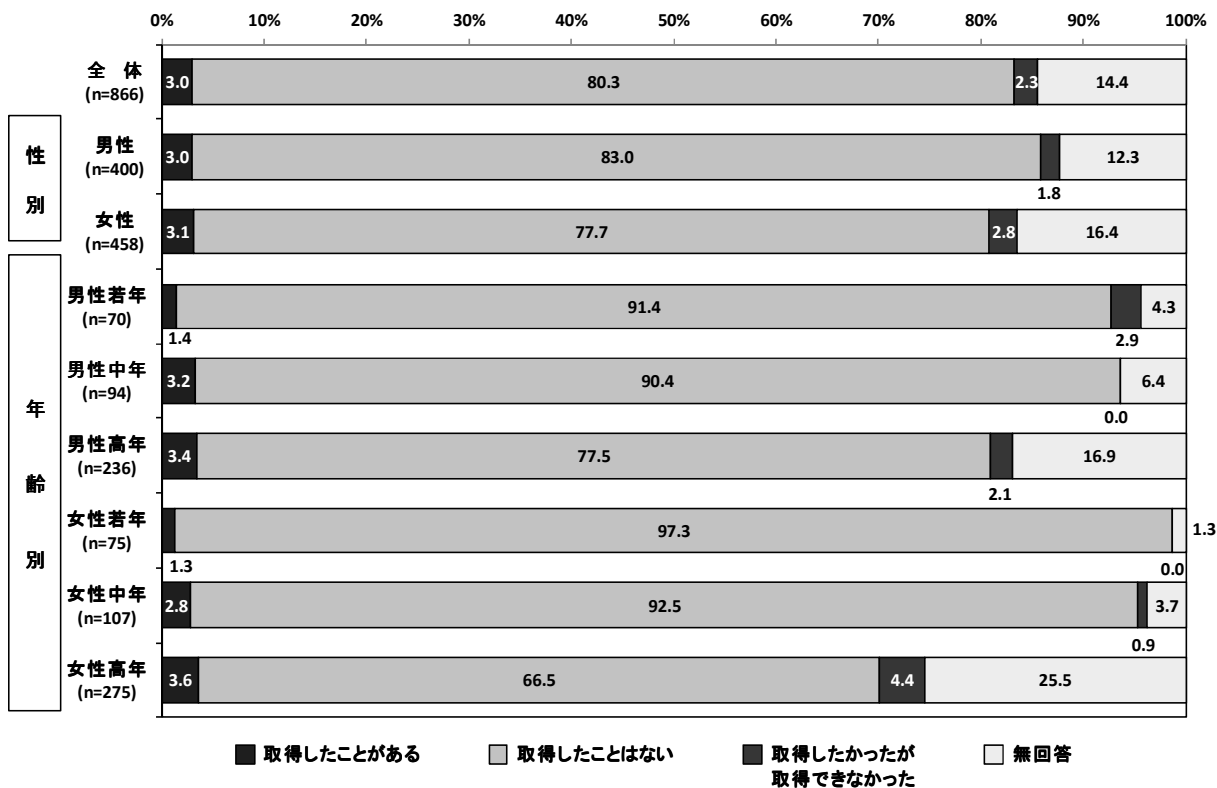
問 12. あなたは、これまでに育児休業（産休を除く）や介護休業を取得したことがありますか。（○印1つずつ）



■ ①育児休業（産休を除く） ■



■ ②介護休業 ■

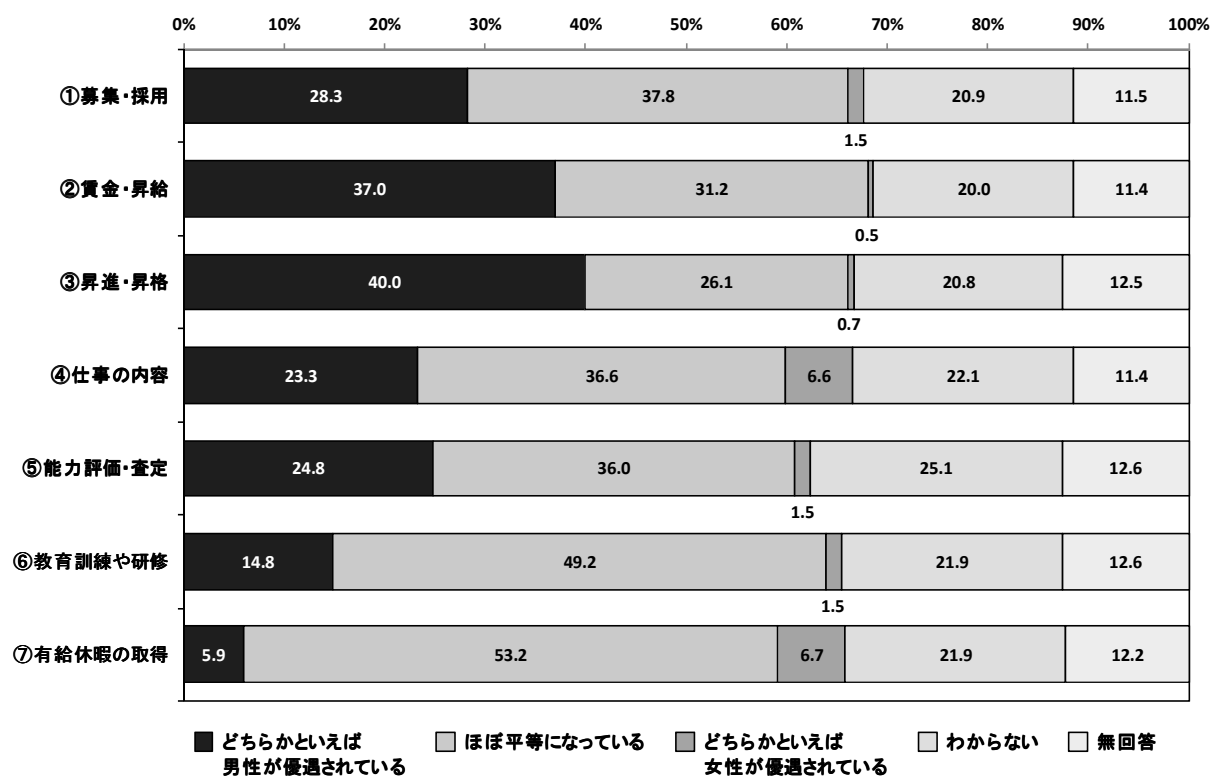


5 職場環境について（問 13）

身近な職場環境の男女平等についてみると、「ほぼ平等になっている」は、『有給休暇の取得』が53.2%と、唯一半数を超えています。次いで『教育訓練や研修』（49.2%）、『募集・採用』（37.8%）、『仕事の内容』（36.6%）、『能力評価・査定』（36.0%）となっています。

「どちらかといえば女性が優遇されている」はごくわずかで、『昇進・昇格』では40.0%、『賃金・昇給』では37.0%が、「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答しています。

問 13. 次の項目について、あなたの身近な職場環境は、男女が平等になっていると思いますか。①から⑦のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）



【属性別特徴】

- 男性優遇度という視点からみると、男性若年層では男性優遇の意識が弱くなっているのに対し、女性若年層では男性優遇の意識が強くなっています。特に、「能力評価・査定」「昇進・昇給」「賃金・昇給」「仕事の内容」で、若年層における男女の意識の差が大きくなっています。ただ、「有給休暇の取得」だけは女性優遇が男性優遇を上回っています。
- 男女平等度という視点からみると、全体的に男性より女性の方が平等意識は弱くなっています。特に、「能力評価・査定」や「賃金・昇給」で男女の意識の差が大きくなっています。

■ 属性別にみた職場環境 ■

【男性優遇度】

		サンプル数	募集・採用	賃金・昇給	昇進・昇格	仕事の内容	政治の場	教育訓練や研修	有給休暇の取得
全体		866	26.8	36.5	39.3	16.7	23.3	13.3	▲ 0.8
性別	男性	400	29.5	37.0	41.0	15.0	19.5	13.5	▲ 0.3
	女性	458	24.5	36.3	37.8	18.3	27.0	13.3	▲ 1.3
年齢別	男性若年	70	14.3	15.7	21.4	1.4	2.9	5.7	▲ 2.8
	男性中年	94	26.6	38.3	40.5	13.9	22.4	16.0	▲ 1.1
	男性高年	236	35.2	42.8	47.0	19.5	23.3	14.9	0.9
	女性若年	75	18.6	33.3	42.7	18.7	29.4	14.7	▲ 2.6
	女性中年	107	26.2	41.2	43.0	17.8	35.5	16.9	▲ 0.9
	女性高年	275	25.1	34.9	34.6	18.5	23.3	11.3	▲ 1.1

(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

※男性優遇度＝「どちらかといえば男性が優遇されている」－「どちらかといえば女性が優遇されている」

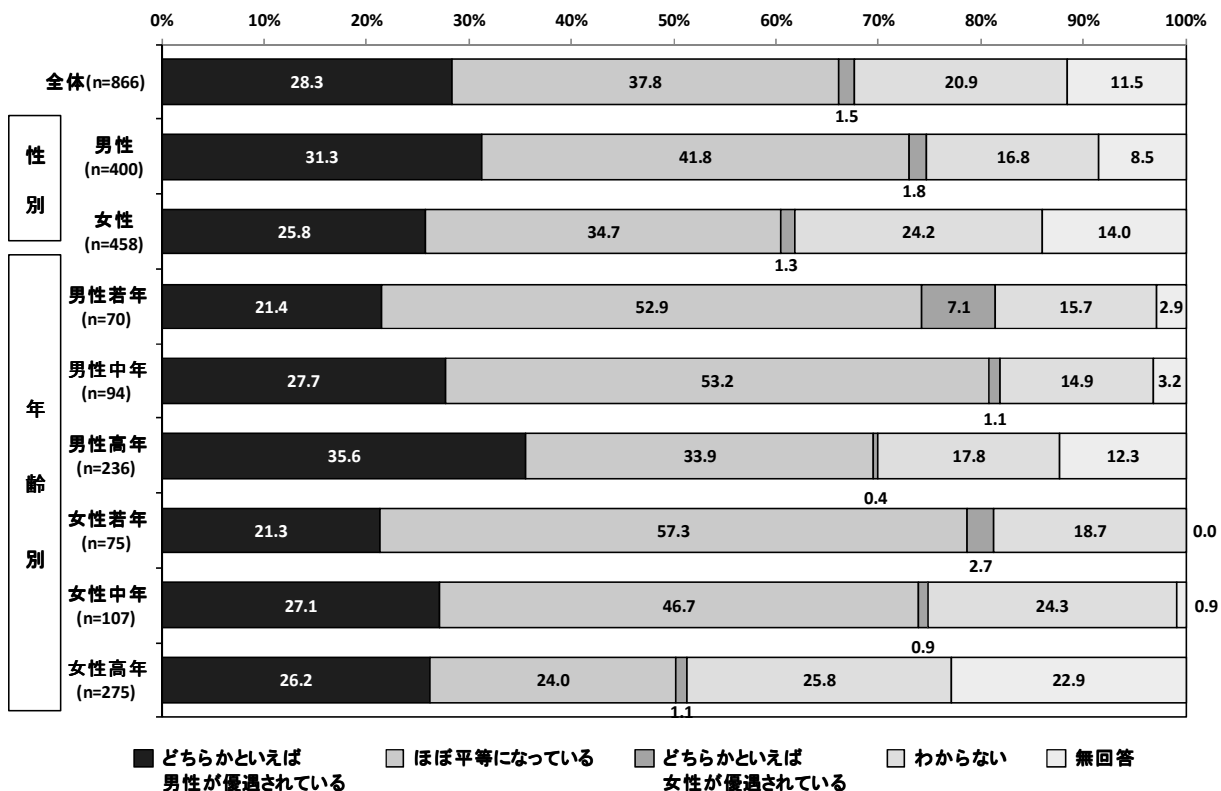
【男女平等度】

		サンプル数	募集・採用	賃金・昇給	昇進・昇格	仕事の内容	能力評価・査定	教育訓練や研修	有給休暇の取得
全体		866	37.8	31.2	26.1	36.6	36.0	49.2	53.2
性別	男性	400	41.8	37.0	29.5	40.3	44.3	53.8	59.5
	女性	458	34.7	26.4	23.6	33.6	29.0	45.4	48.3
年齢別	男性若年	70	52.9	55.7	48.6	52.9	60.0	64.3	65.7
	男性中年	94	53.2	44.7	36.2	46.8	51.1	63.8	74.5
	男性高年	236	33.9	28.4	21.2	33.9	36.9	46.6	51.7
	女性若年	75	57.3	49.3	40.0	49.3	44.0	64.0	66.7
	女性中年	107	46.7	33.6	31.8	44.9	34.6	55.1	63.6
	女性高年	275	24.0	17.5	15.6	24.7	22.5	36.7	37.1

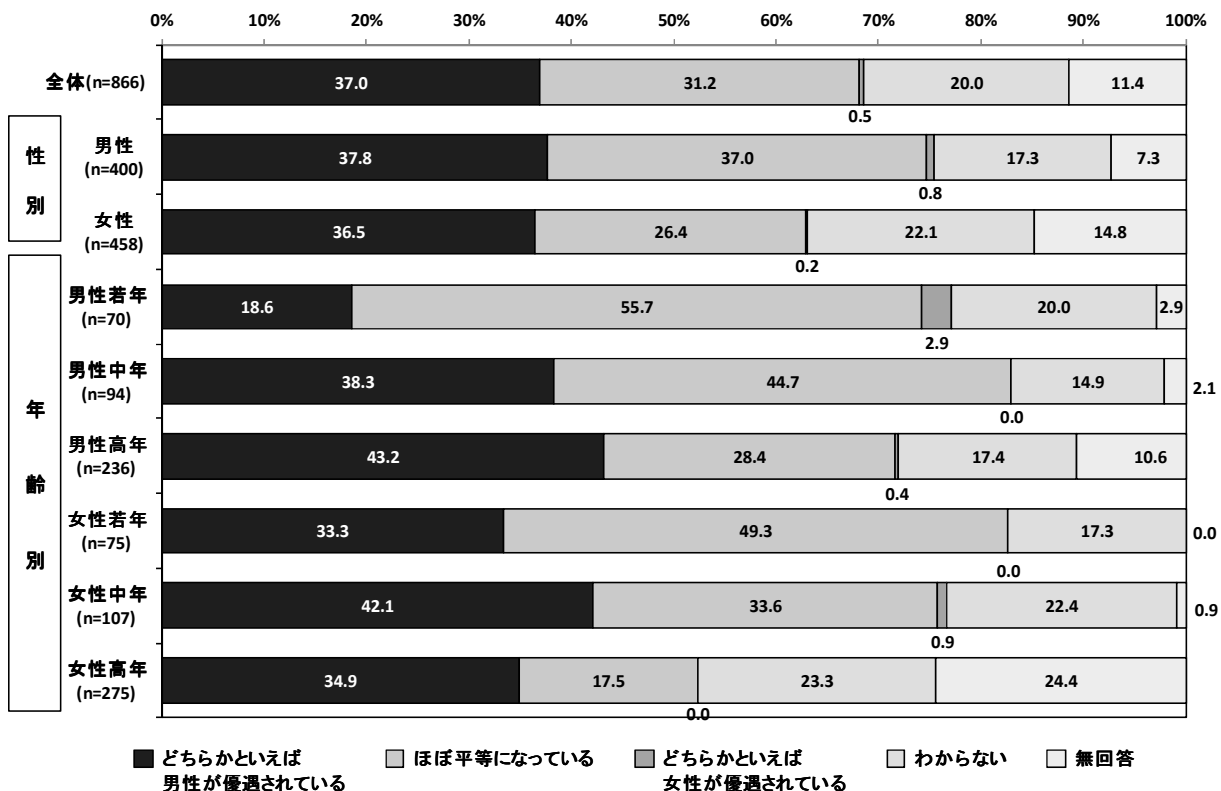
(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

※男女平等度＝「ほぼ平等になっている」

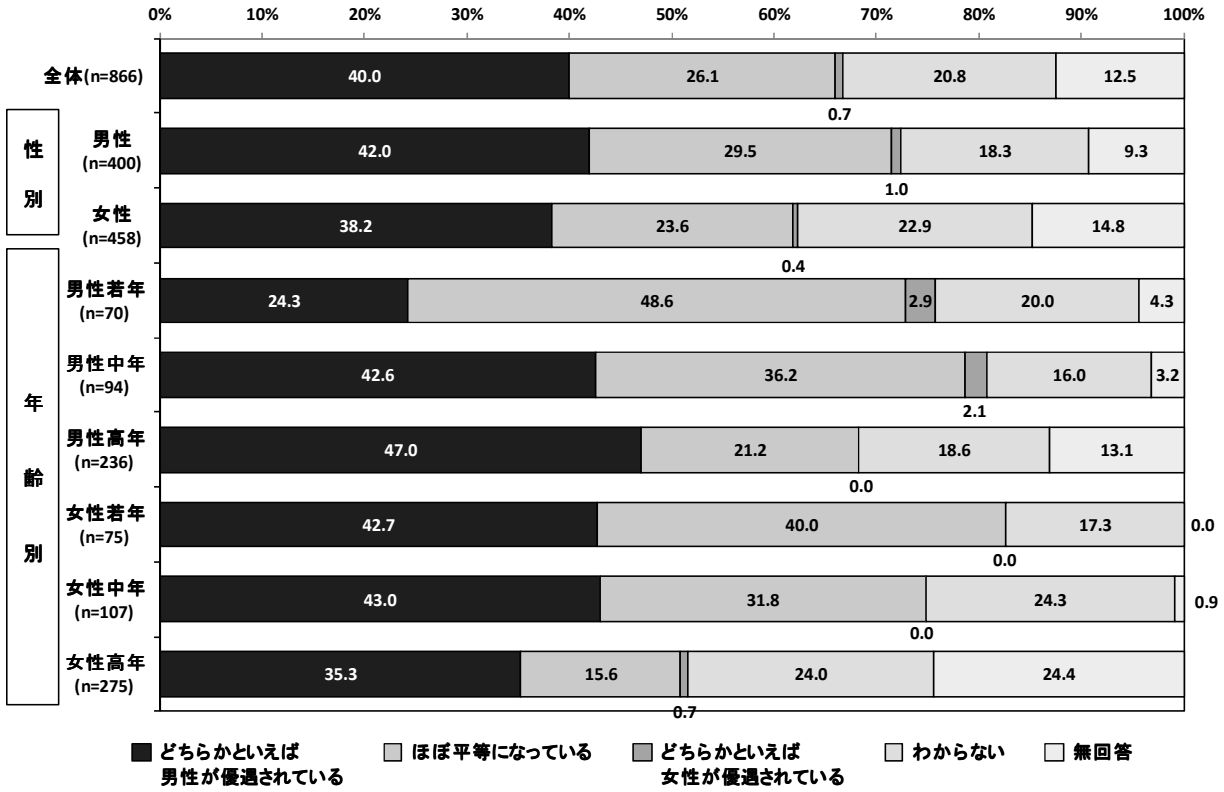
■ ①募集・採用 ■



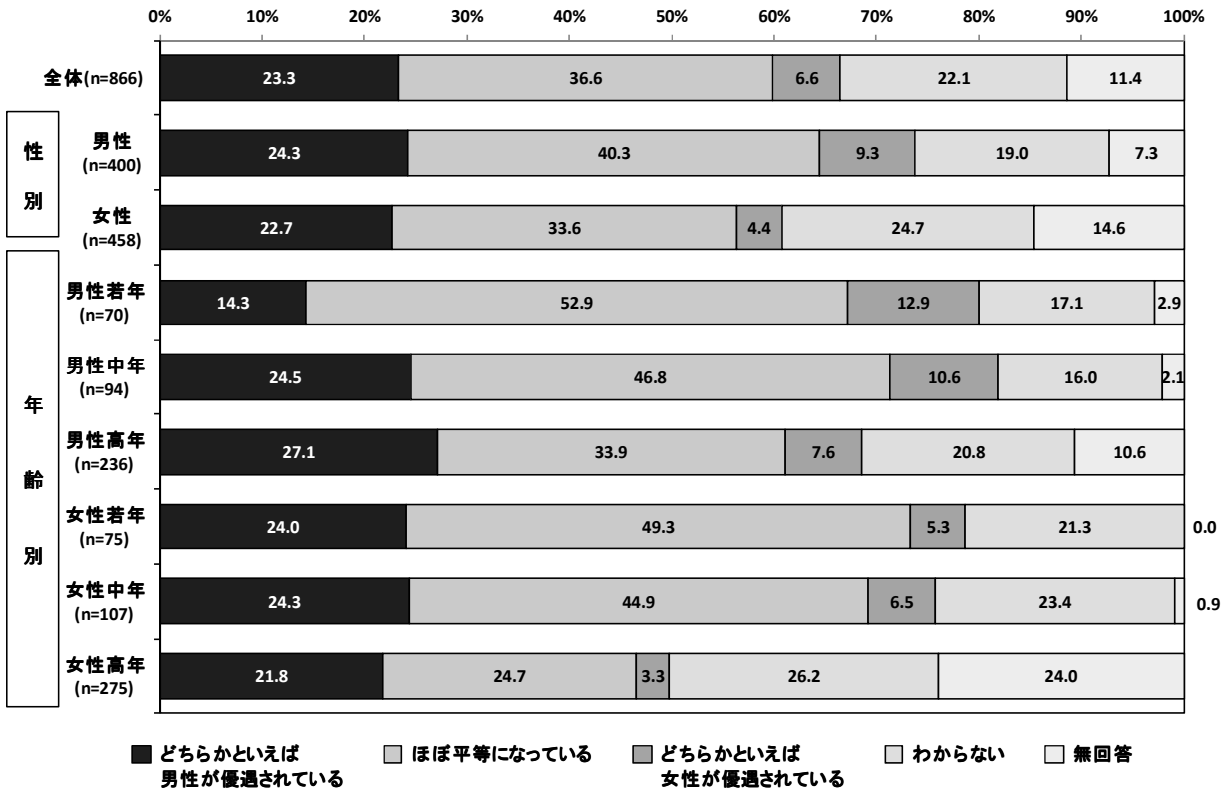
■ ②賃金・昇給 ■



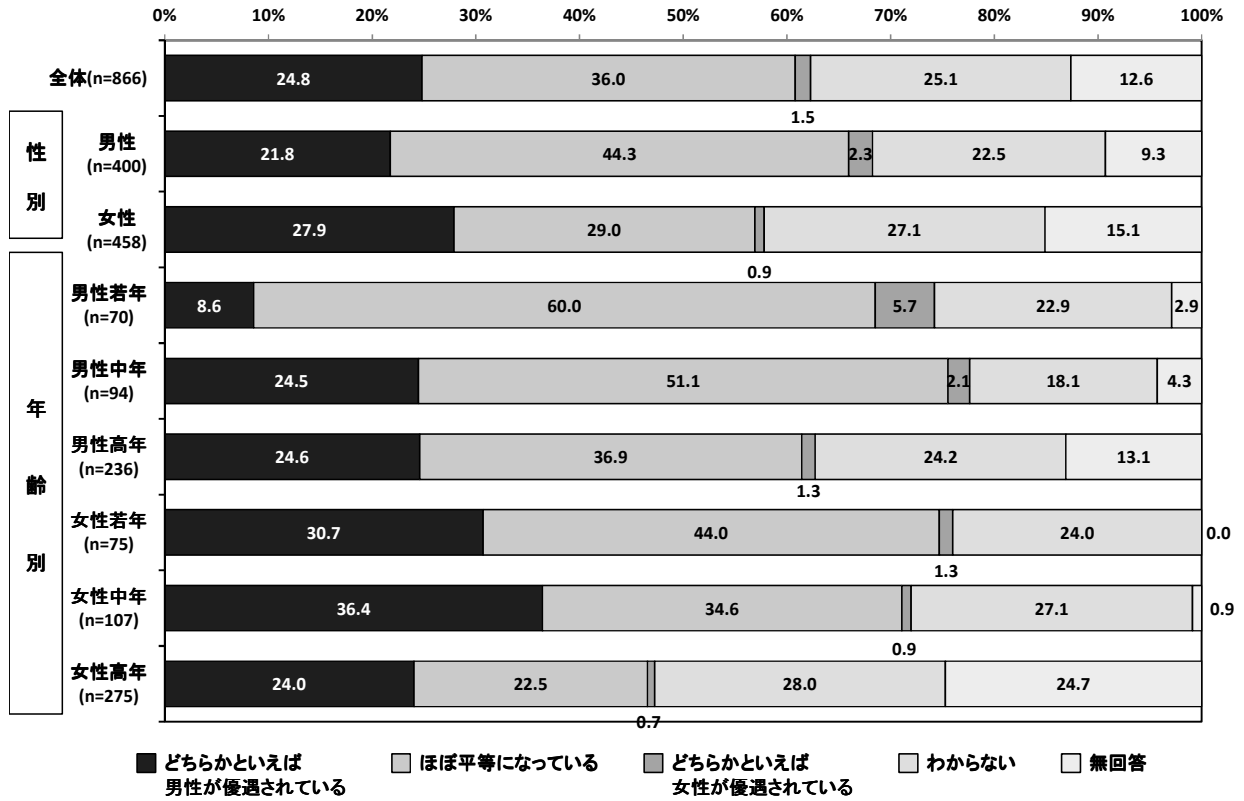
■ ③昇進・昇格 ■



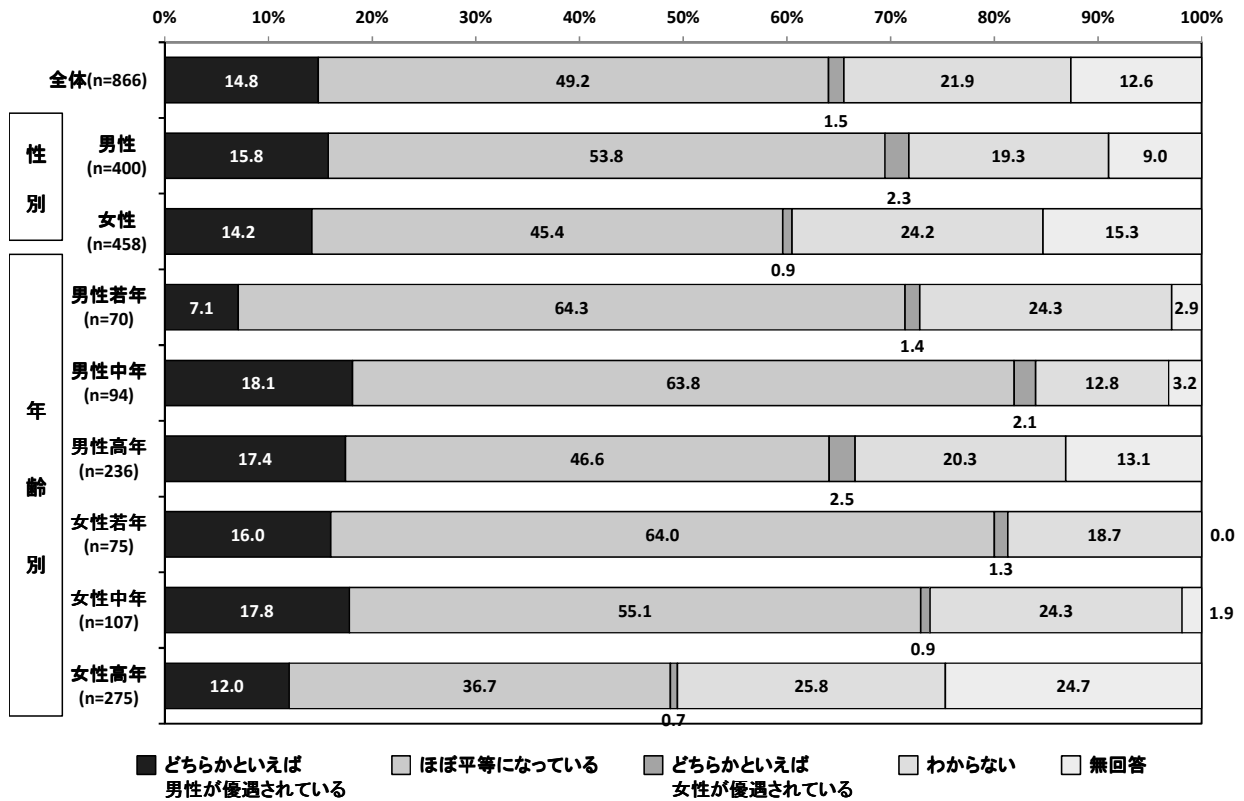
■ ④仕事の内容 ■



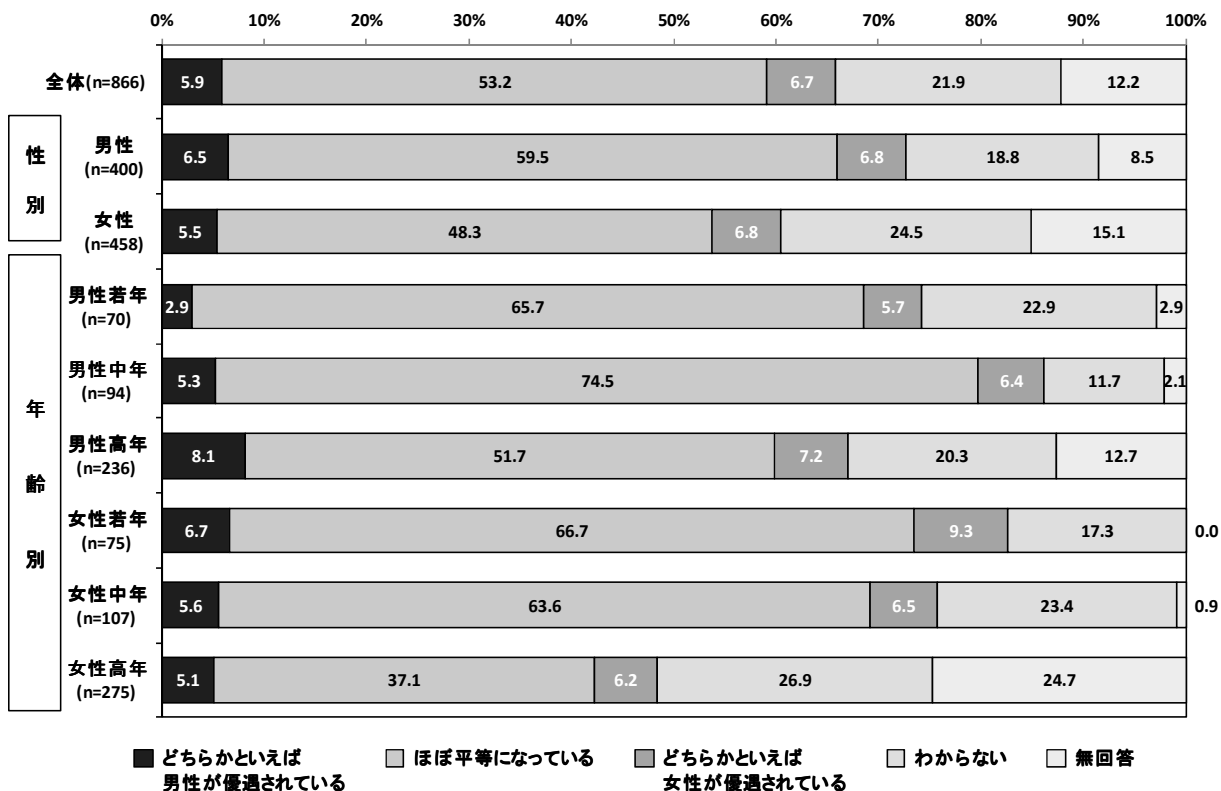
■ ⑤能力評価・査定 ■



■ ⑥教育訓練や研修 ■



■ ⑦有給休暇の取得 ■



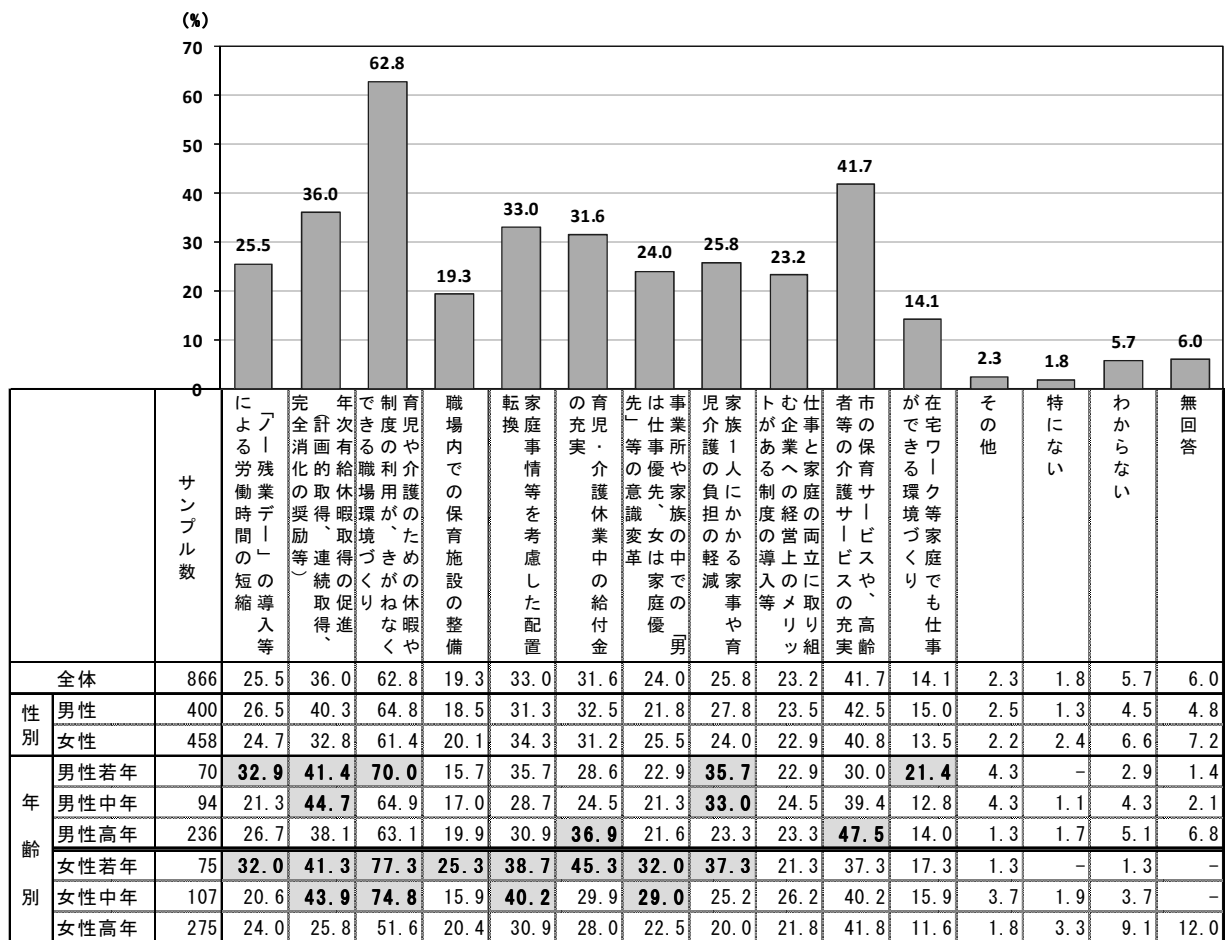
6 仕事との生活を両立するために必要なこと（問 14）

男女ともに、仕事と生活を両立するために必要なこととしては、「育児や介護のための休暇や制度の利用が、きがねなくできる職場環境づくり」が 62.8%と最も多くなっています。次いで「市の保育サービスや、高齢者等の介護サービスの充実」（41.7%）、「年次有給休暇取得の促進（計画的取得、連続取得、完全消化の奨励等）」（36.0%）、「家庭事情等を考慮した配置転換」（33.0%）、「育児・介護休業中の給付金の充実」（31.6%）となっています。

【属性別特徴】

- 性別にみると、「年次有給休暇取得の促進（計画的取得、連続取得、完全消化の奨励等）」は男性では 40.3%ですが、女性では 32.8%と少なくなっています。
- 年齢別にみると、「育児・介護休業中の給付金の充実」が女性若年層で 45.3%、「家庭事情等を考慮した配置転換」が女性中年層で 40.2%と多くなっている点が注目されます。

問 14. あなたは、男女ともに、仕事と生活を両立するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○印5つまで）



性別	年齢別	サンプル数	必要なこと														
			「年次有給休暇取得の促進（計画的取得、連続取得、完全消化の奨励等）」	「家庭事情等を考慮した配置転換」	「育児・介護休業中の給付金の充実」	「先等の仕事優先、女性の意識変革」	「事業所や家族の中での育児・介護の負担の軽減」	「家族一人にかかる家事や育児の負担の軽減」	「仕事と家庭の両立に取組む企業への経営上のメリット」	「市等の介護サービスの充実」	「在宅ワーク等家庭でも仕事ができる環境づくり」	その他	特にない	わからない	無回答		
全体		866	25.5	36.0	62.8	19.3	33.0	31.6	24.0	25.8	23.2	41.7	14.1	2.3	1.8	5.7	6.0
性別	男性	400	26.5	40.3	64.8	18.5	31.3	32.5	21.8	27.8	23.5	42.5	15.0	2.5	1.3	4.5	4.8
	女性	458	24.7	32.8	61.4	20.1	34.3	31.2	25.5	24.0	22.9	40.8	13.5	2.2	2.4	6.6	7.2
年齢別	男性若年	70	32.9	41.4	70.0	15.7	35.7	28.6	22.9	35.7	22.9	30.0	21.4	4.3	-	2.9	1.4
	男性中年	94	21.3	44.7	64.9	17.0	28.7	24.5	21.3	33.0	24.5	39.4	12.8	4.3	1.1	4.3	2.1
	男性高年	236	26.7	38.1	63.1	19.9	30.9	36.9	21.6	23.3	23.3	47.5	14.0	1.3	1.7	5.1	6.8
	女性若年	75	32.0	41.3	77.3	25.3	38.7	45.3	32.0	37.3	21.3	37.3	17.3	1.3	-	1.3	-
	女性中年	107	20.6	43.9	74.8	15.9	40.2	29.9	29.0	25.2	26.2	40.2	15.9	3.7	1.9	3.7	-
	女性高年	275	24.0	25.8	51.6	20.4	30.9	28.0	22.5	20.0	21.8	41.8	11.6	1.8	3.3	9.1	12.0

(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの(「無回答」を除く)

7 セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）について（問 15）

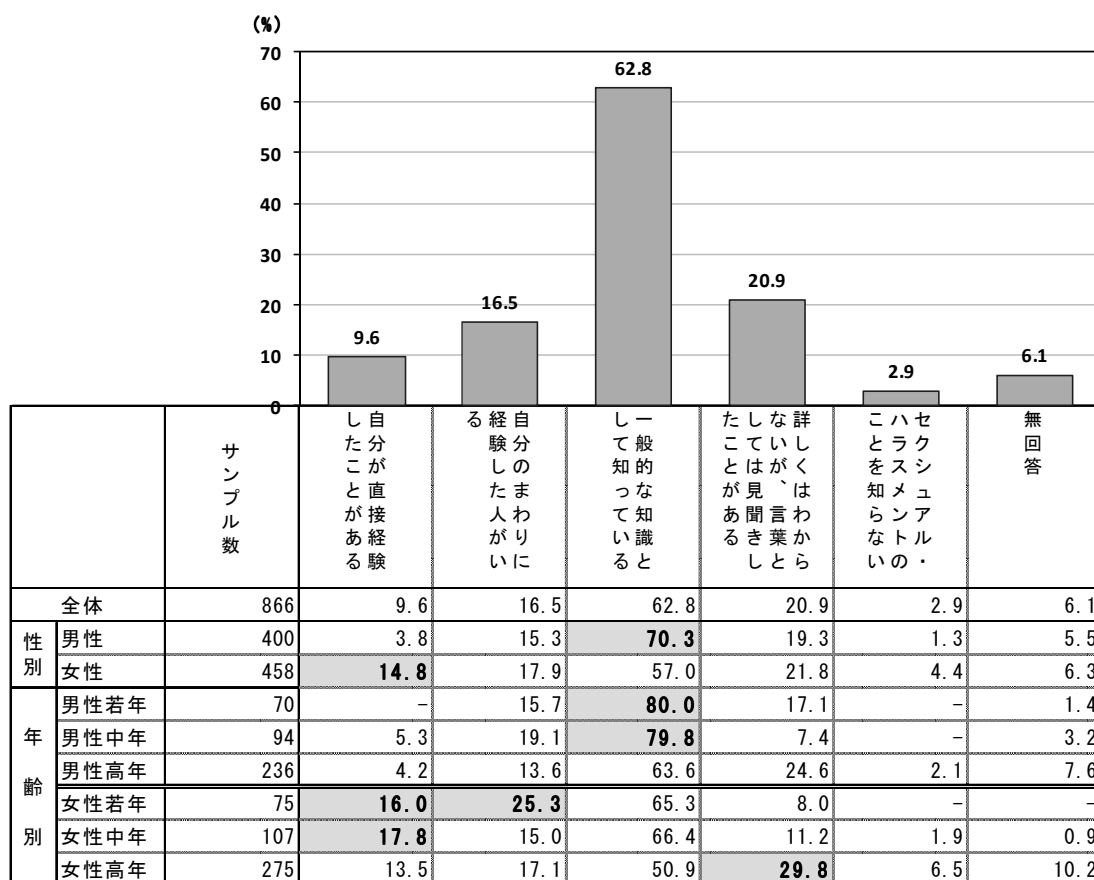
セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）を身近で経験したり、見聞きしたりしたことについてみると、「一般的な知識として知っている」が62.8%と圧倒的に多くなっています。

「自分が直接経験したことがある」は9.6%、「自分のまわりに経験した人がある」が16.5%となっています。

【属性別特徴】

- 性別にみると、「自分が直接経験したことがある」は女性では14.8%（男性3.8%）と多くなっています。
- 年齢別にみると、「自分が直接経験したことがある」は女性若年層で16.0%、女性中年層で17.8%、女性高年層で13.5%となっています。
また、「自分のまわりに経験した人がある」は、女性若年層では25.3%にのびります。

問 15. あなたは、セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）を身近で経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）



（注）太字は、全体よりも5ポイント以上大きいもの（「無回答」を除く）

8 パワー・ハラスメントについて（問 16）

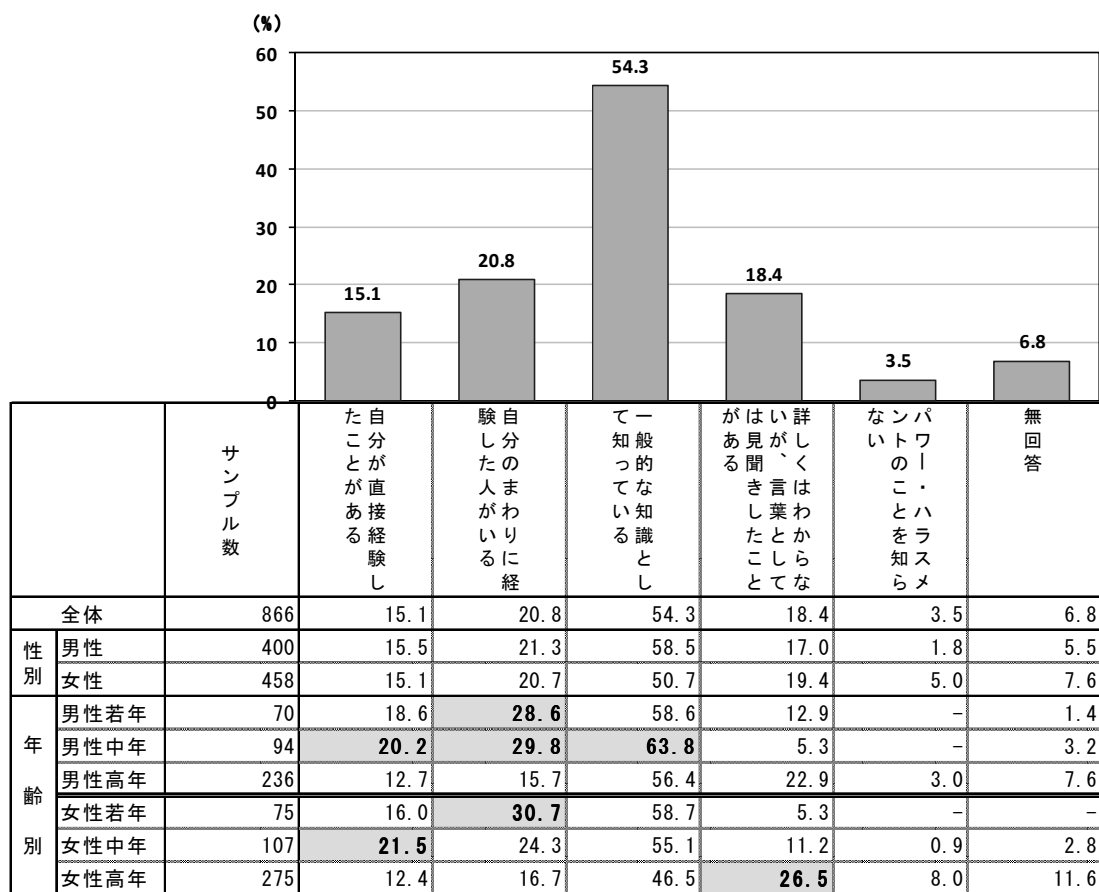
パワー・ハラスメントを身近で経験したり、見聞きしたりしたことについてみると、「一般的な知識として知っている」が 54.3%と圧倒的に多くなっています。

「自分が直接経験したことがある」は 15.1%、「自分のまわりに経験した人がいる」が 20.8%となっています。

【属性別特徴】

- 性別による差はあまり大きくありません。
- 年齢別にみると、「自分が直接経験したことがある」は、男性中年層で 20.2%、女性中年層で 21.5%と多くなっています。
また、「自分のまわりに経験した人がいる」は、女性若年層では 30.7%にのぼり、男性若年層で 28.6%、男性中年層で 29.8%と多くなっています。

問 16. あなたは、パワー・ハラスメントを身近で経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。
(○印いくつでも)



(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの(「無回答」を除く)

9 マタニティ・ハラスメントについて（問 17）

マタニティ・ハラスメントを身近で経験したり、見聞きしたりしたことについてみると、「一般的な知識として知っている」が63.5%と圧倒的に多くなっています。

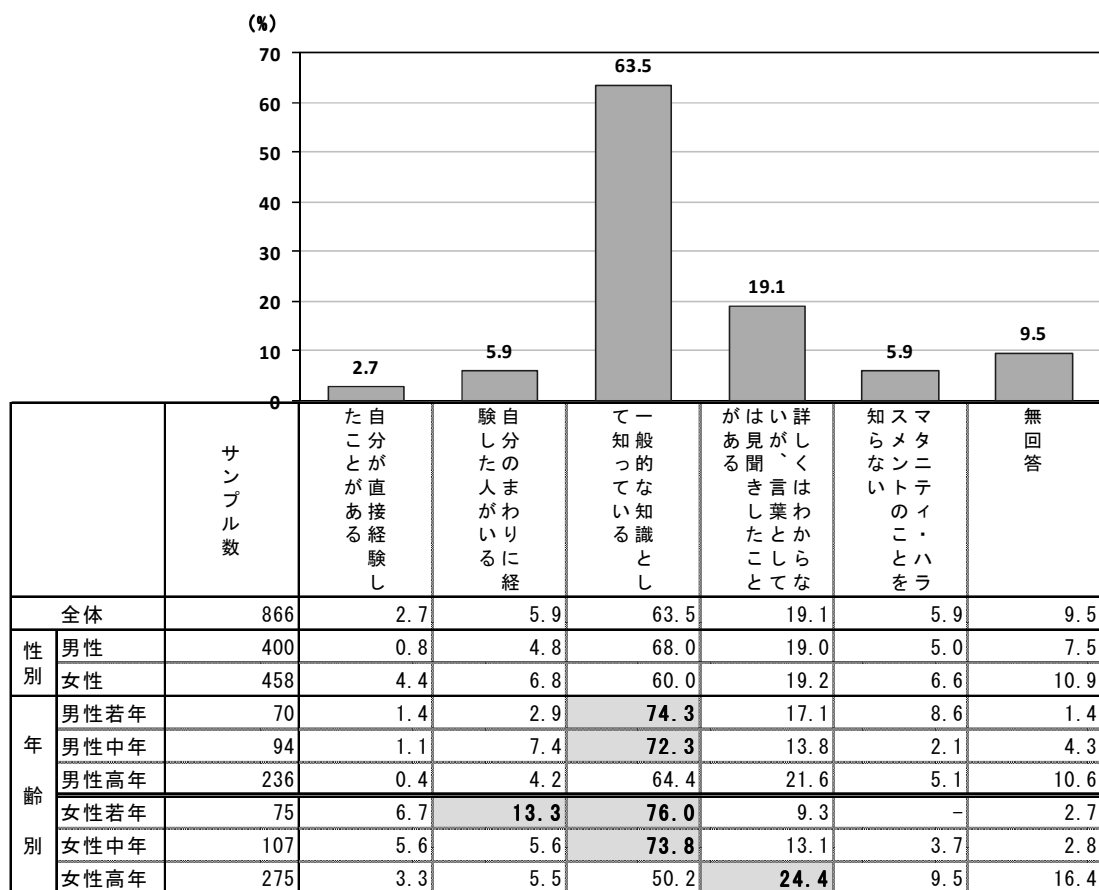
「自分が直接経験したことがある」は2.7%、「自分のまわりに経験した人がある」が5.9%となっています。

【属性別特徴】

- 性別にみると、女性では4.4%が「自分が直接経験したことがある」と答えています。
- 年齢別にみると、「自分が直接経験したことがある」は女性若年層で6.7%、女性中年層で5.6%、女性高年層で3.3%となっています。

また、「自分のまわりに経験した人がある」は、女性若年層では13.3%と多くなっています。

問 17. あなたは、マタニティ・ハラスメントを身近で経験したり、見聞きしたりしたことがありますか。（○印いくつでも）



(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの(「無回答」を除く)

家庭生活と男女の役割について

10 結婚と家庭に関する考え方（問 18）

結婚と家庭に関する 12 の考え方を提示し、賛否を尋ねました。

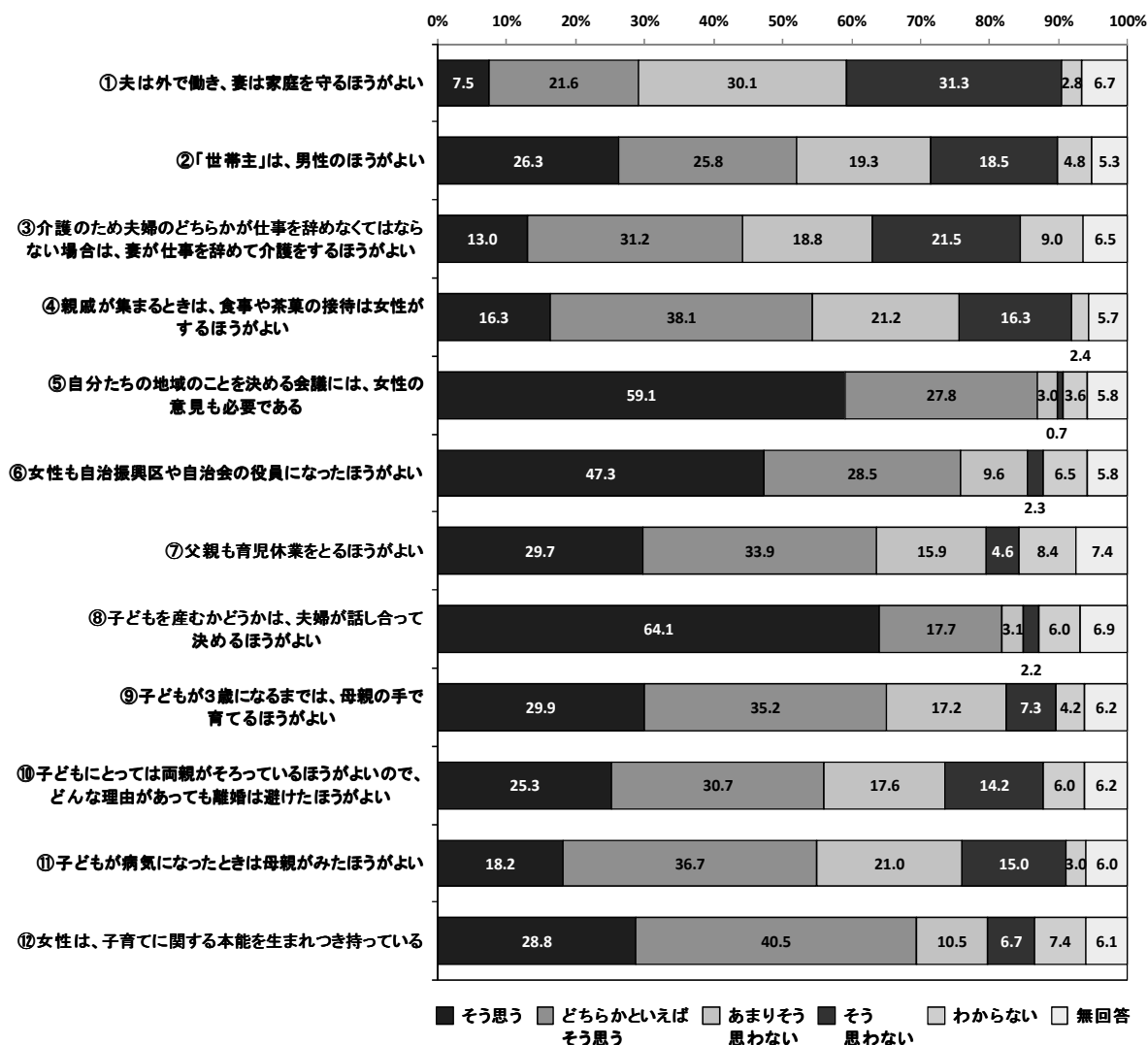
肯定（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）意見のトップ 5 は以下のとおりです。

- ①自分たちの地域のことを決める会議には、女性の意見も必要である … 86.9%
- ②子どもを産むかどうかは、夫婦が話し合っただけで決めるほうがよい …… 81.8%
- ③女性も自治振興区や自治会の役員になったほうがよい …… 75.8%
- ④女性は、子育てに関する本能を生まれつき持っている …… 69.3%
- ⑤子どもが3歳になるまでは、母親の手で育てるほうがよい …… 65.1%

逆に、否定（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）意見のトップ 5 は以下のとおりです。

- ①夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい …… 61.4%
- ②介護のため夫婦のどちらかが仕事を辞めなくてはならない場合は、妻が仕事を辞めて介護をするほうがよい …… 40.3%
- ③「世帯主」は、男性のほうがよい …… 37.8%
- ④親戚が集まるときは、食事や茶菓の接待は女性がするほうがよい …… 37.5%
- ⑤子どもが病気になったときは母親がみたほうがよい …… 36.0%

問 18. あなたは、結婚と家庭に関する次のような考えについて、どのように思いますか。①から⑫のそれぞれについてお答えください。（○印1つずつ）



【属性別特徴】

- 性別、年齢別にみて、全ての属性で否定割合が肯定割合を上回ったのは、『夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい』のひとつだけです。
- 男性の若年層と中年層では、『「世帯主」は、男性のほうがよい』の否定割合が肯定割合を上回っていますが、女性では肯定意見の方が多くなっています。
- 『介護のため夫婦のどちらかが仕事を辞めなくてはならない場合は、妻が仕事を辞めて介護をするほうがよい』は、全体では肯定割合が上回っていますが、男女とも若年層、中年層では否定割合が上回っています。
- 『子どもにとっては両親がそろっているほうがよいので、どんな理由があっても離婚は避けたほうがよい』は、女性の若年層と中年層で否定割合が上回っています。

■ 属性別にみた結婚と家庭に関する考え方 ■

【役割肯定度】

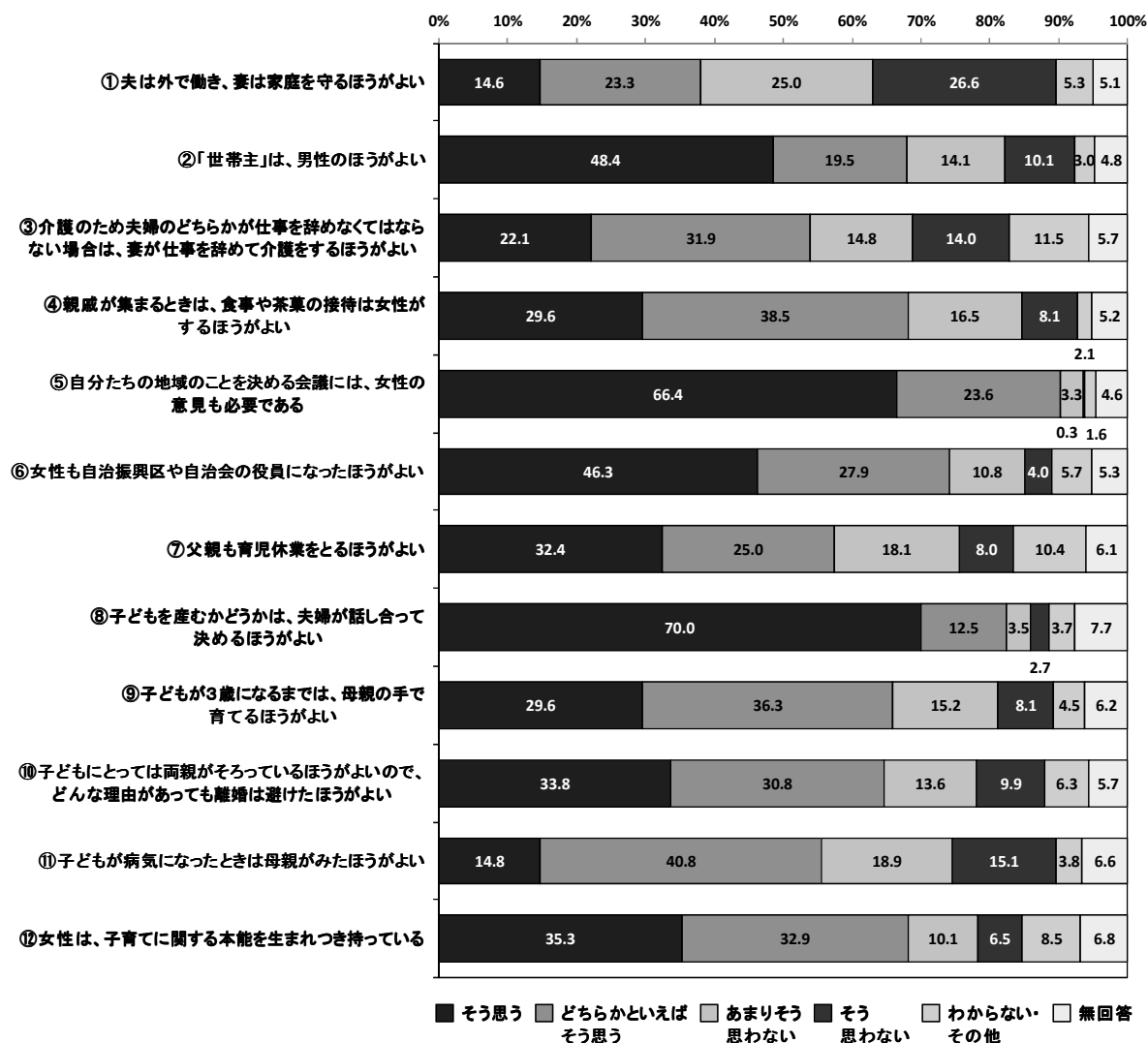
		サンプル数	夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい	「世帯主」は、男性のほうがよい	介護のため夫婦のどちらかが仕事を辞めなくてはならない場合は、妻が仕事を辞めて介護をするほうがよい	親戚が集まる時は、食事が茶菓の接遇は、性が事茶菓の接遇は、性が事茶菓の接遇は、	政治の場	女性の自治振興区や自治会の役員になったほ
全体		866	▲ 32.3	14.3	3.9	16.9	83.2	63.9
性別	男性	400	▲ 35.9	2.2	1.3	18.2	85.2	78.2
	女性	458	▲ 30.6	23.8	5.8	16.2	82.1	51.7
年齢別	男性若年	70	▲ 45.7	▲ 0.1	▲ 31.4	▲ 14.3	75.8	57.0
	男性中年	94	▲ 47.9	▲ 20.3	▲ 11.7	8.5	84.1	79.7
	男性高年	236	▲ 28.3	11.8	16.0	31.8	88.6	83.9
	女性若年	75	▲ 66.6	9.2	▲ 19.9	▲ 4.0	91.9	62.7
	女性中年	107	▲ 49.5	11.1	▲ 13.1	▲ 2.9	86.0	44.9
	女性高年	275	▲ 13.1	32.3	20.1	28.7	77.8	51.3

		サンプル数	父親も育児休業をとる	子どもを産むかどうか決める夫婦が話し合っている	子どもが3歳になるまで、母親が一人で育てる	子どもが離婚する理由は、あんなに離婚する理由がない	子どもが病気になったり、母親が気になった	女性の能力を子育てに活かす
全体		866	43.1	76.5	40.6	24.2	18.9	52.1
性別	男性	400	46.2	77.7	42.5	37.0	10.5	53.8
	女性	458	41.0	75.5	38.9	13.5	26.2	50.4
年齢別	男性若年	70	55.7	75.7	17.1	7.2	▲ 30.0	27.2
	男性中年	94	42.5	83.0	47.8	16.0	▲ 8.5	47.9
	男性高年	236	44.9	76.3	48.0	54.3	30.0	64.0
	女性若年	75	58.7	89.4	9.3	▲ 30.6	▲ 1.3	21.4
	女性中年	107	45.8	80.5	27.1	▲ 14.1	7.5	43.1
	女性高年	275	34.9	69.8	51.3	36.0	40.7	61.1

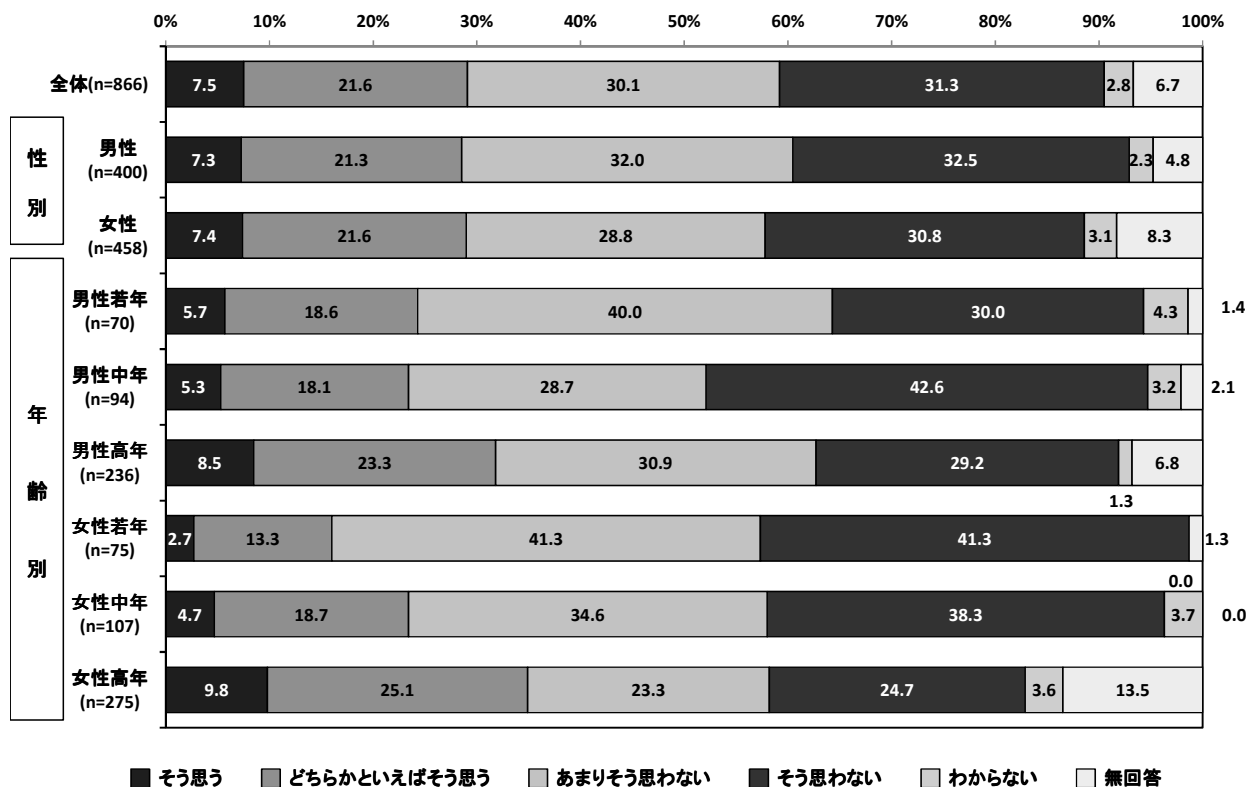
※役割肯定程度＝（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）－（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）

（注） **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

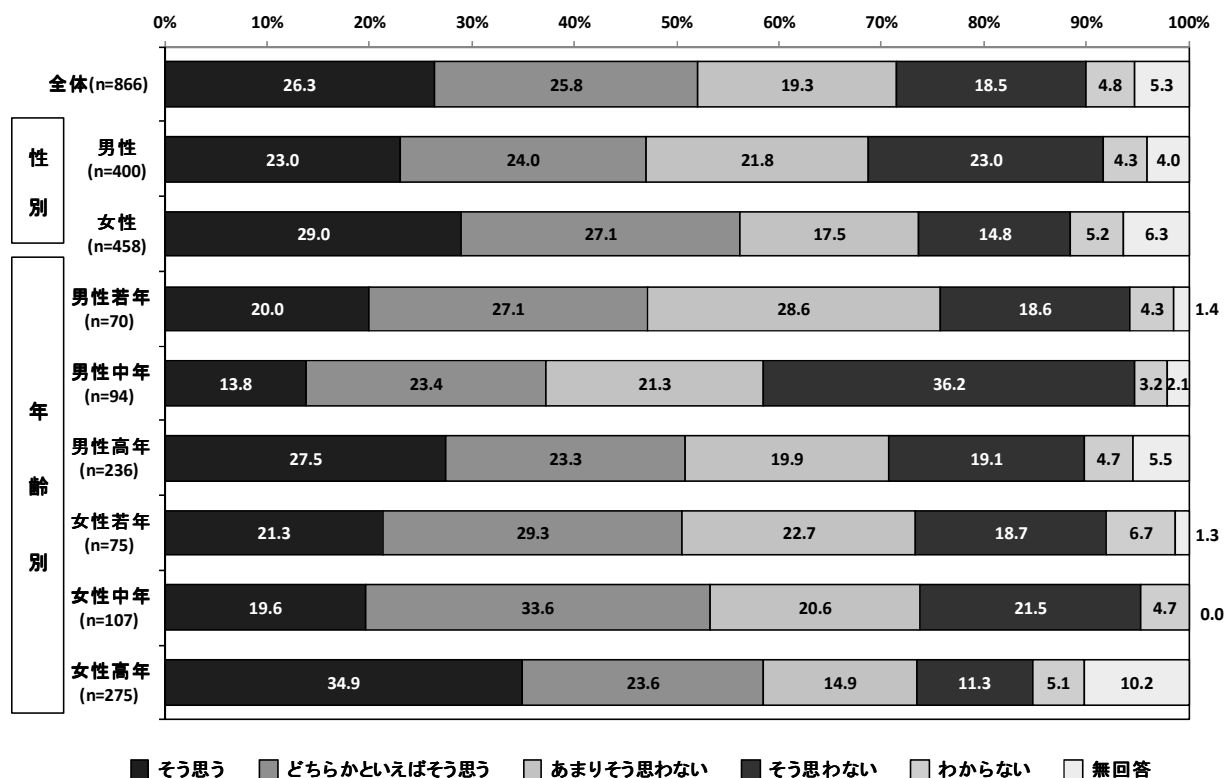
《 参考：前回（平成 23 年）調査結果 》



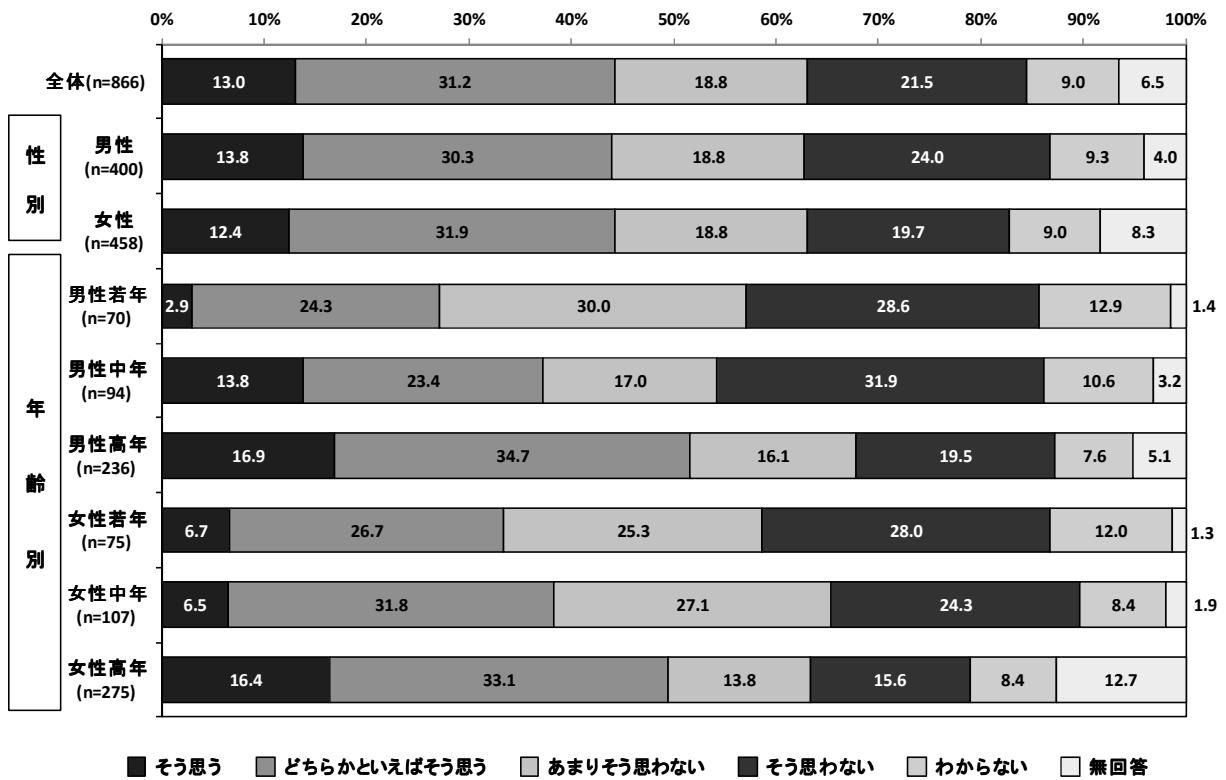
■ ①夫は外で働き、妻は家庭を守るほうがよい ■



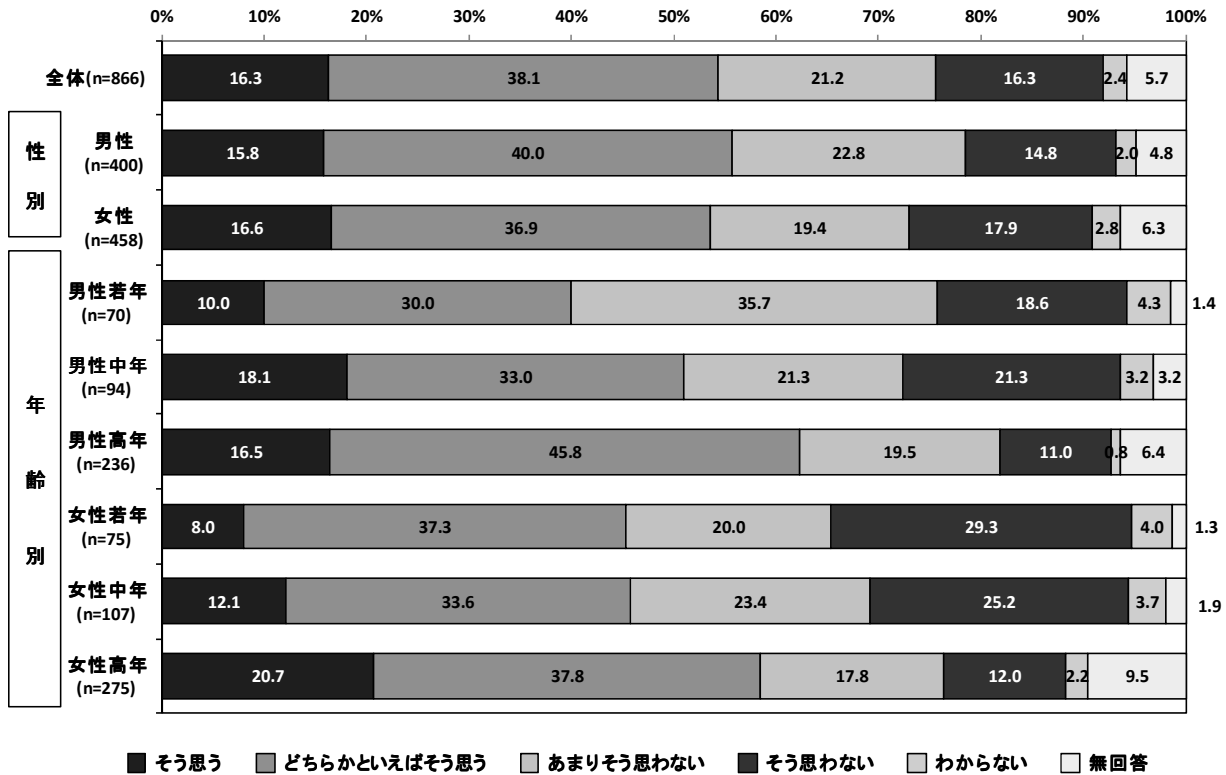
■ ②「世帯主」は、男性のほうがよい ■



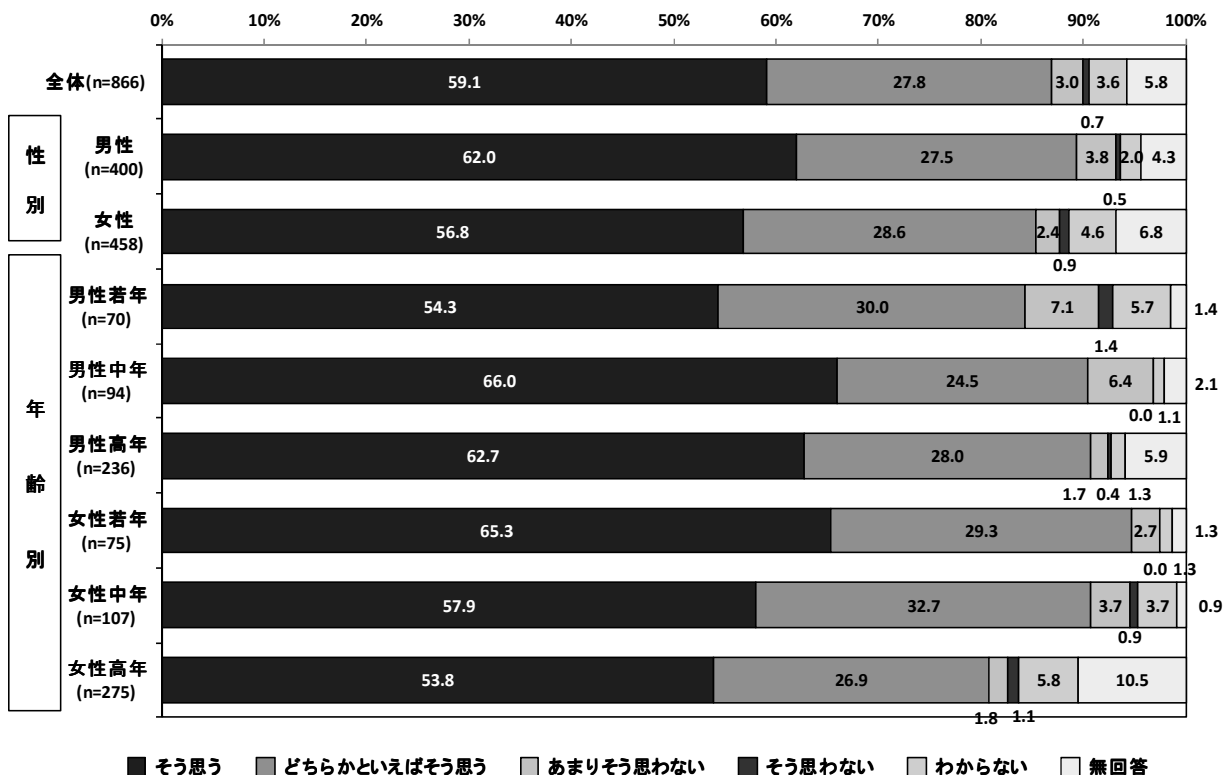
■ ③介護のため夫婦のどちらかが仕事を辞めなくてはならない場合は、妻が仕事を辞めて介護をするほうがよい ■



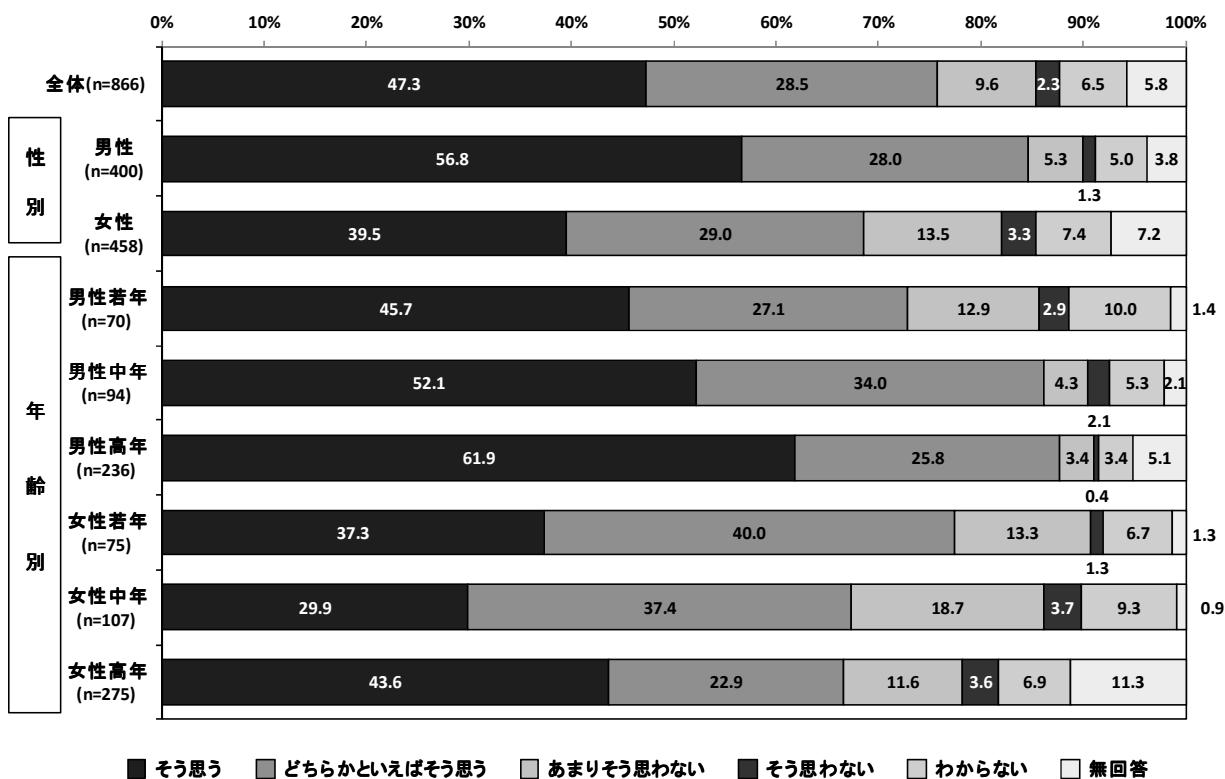
■ ④親戚が集まるときは、食事や茶菓の接待は女性がするほうがよい ■



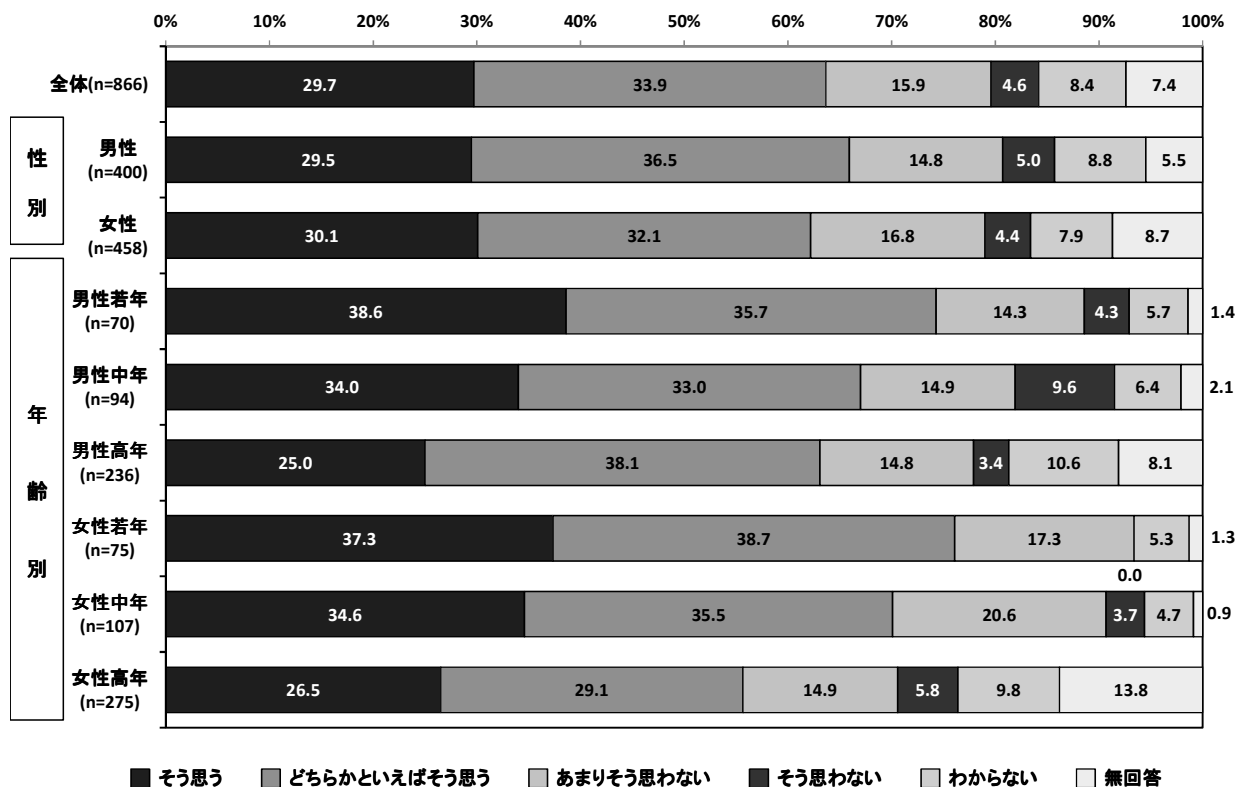
■ ⑤自分たちの地域のことを決める会議には、女性の意見も必要である ■



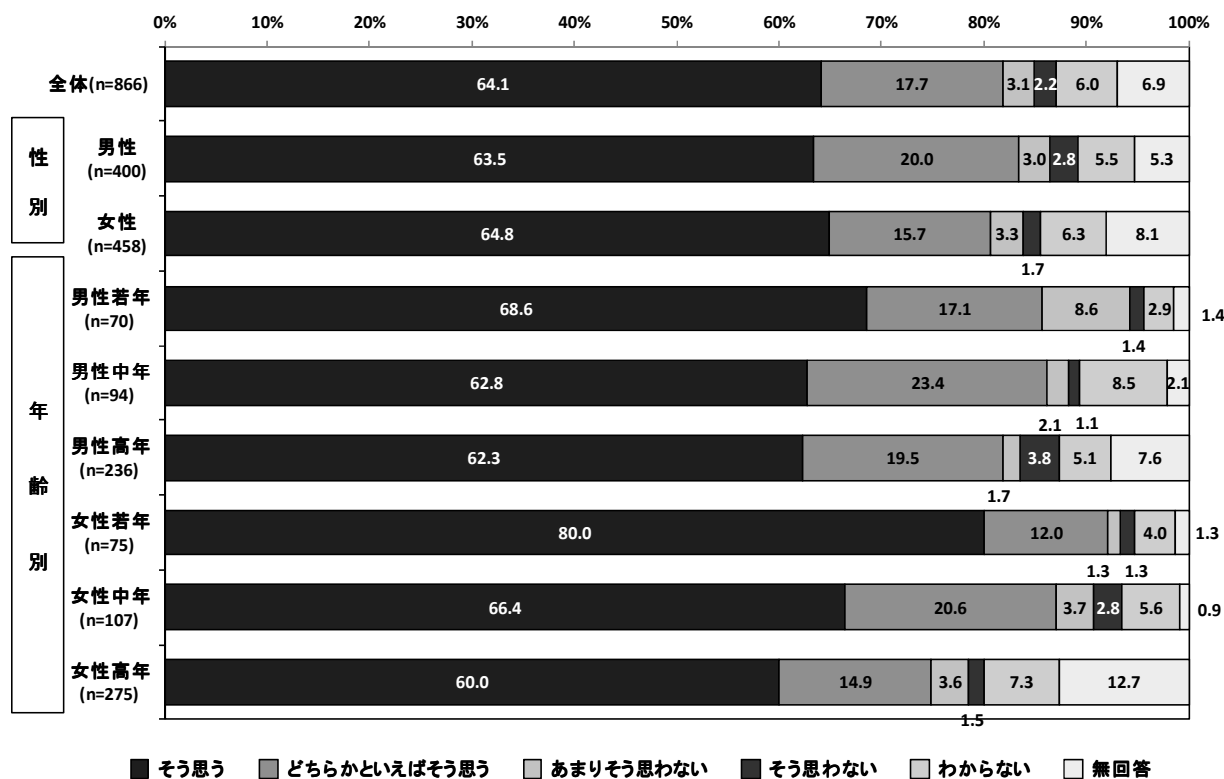
■ ⑥女性も自治振興区や自治会の役員になったほうがよい ■



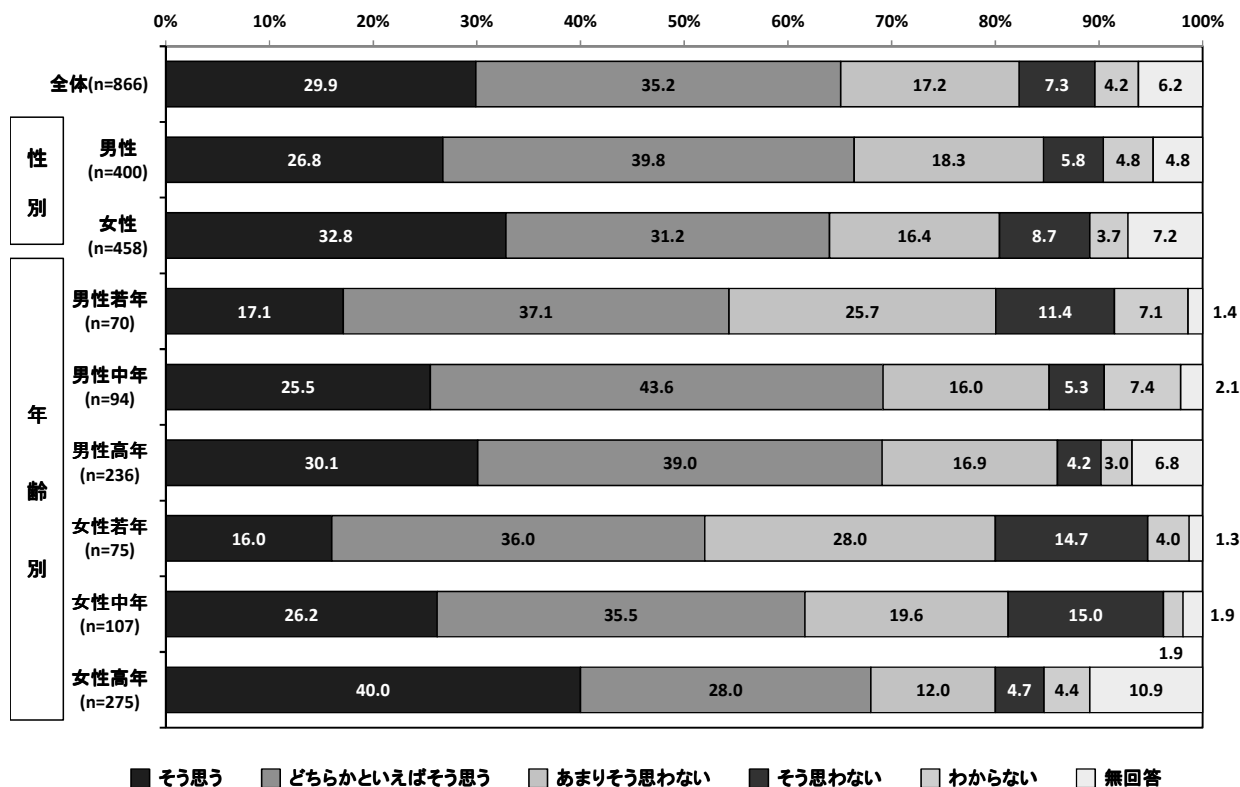
■ ⑦父親も育児休業をとるほうがよい ■



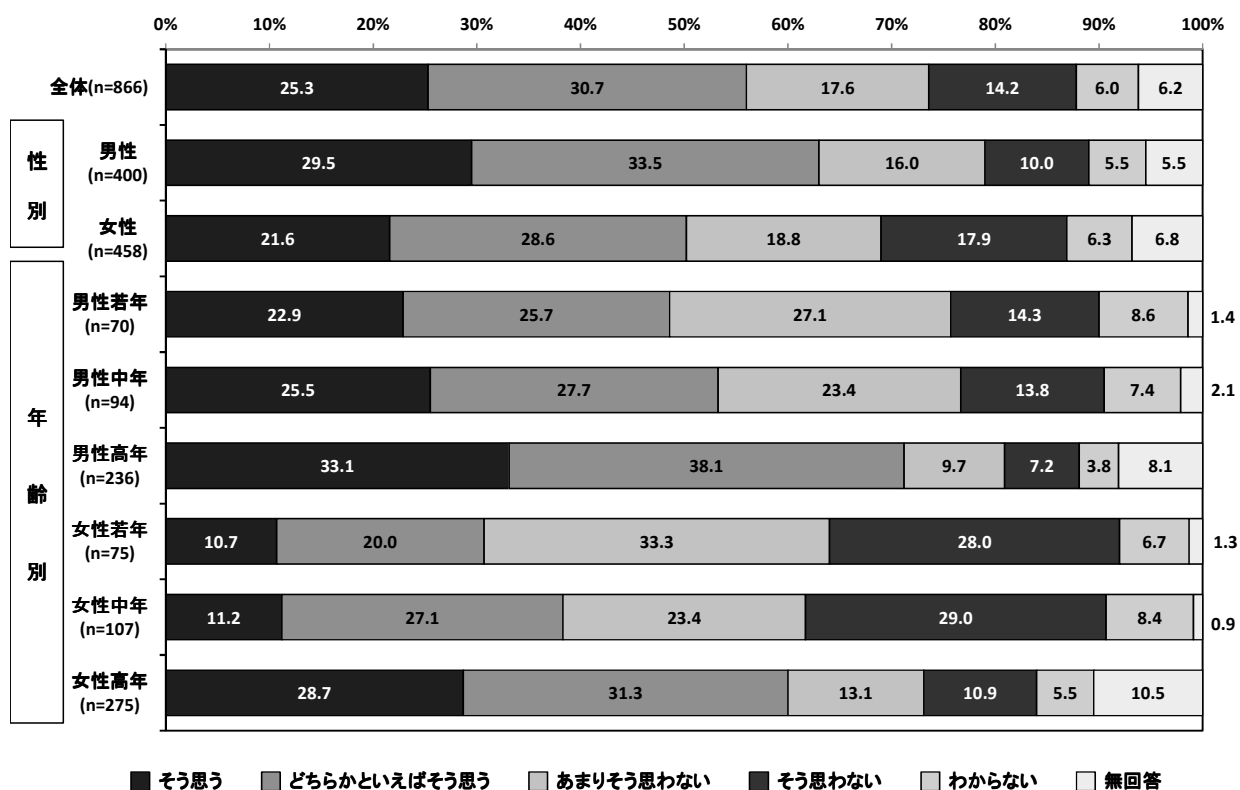
■ ⑧子どもを産むかどうかは、夫婦が話し合って決めるほうがよい ■



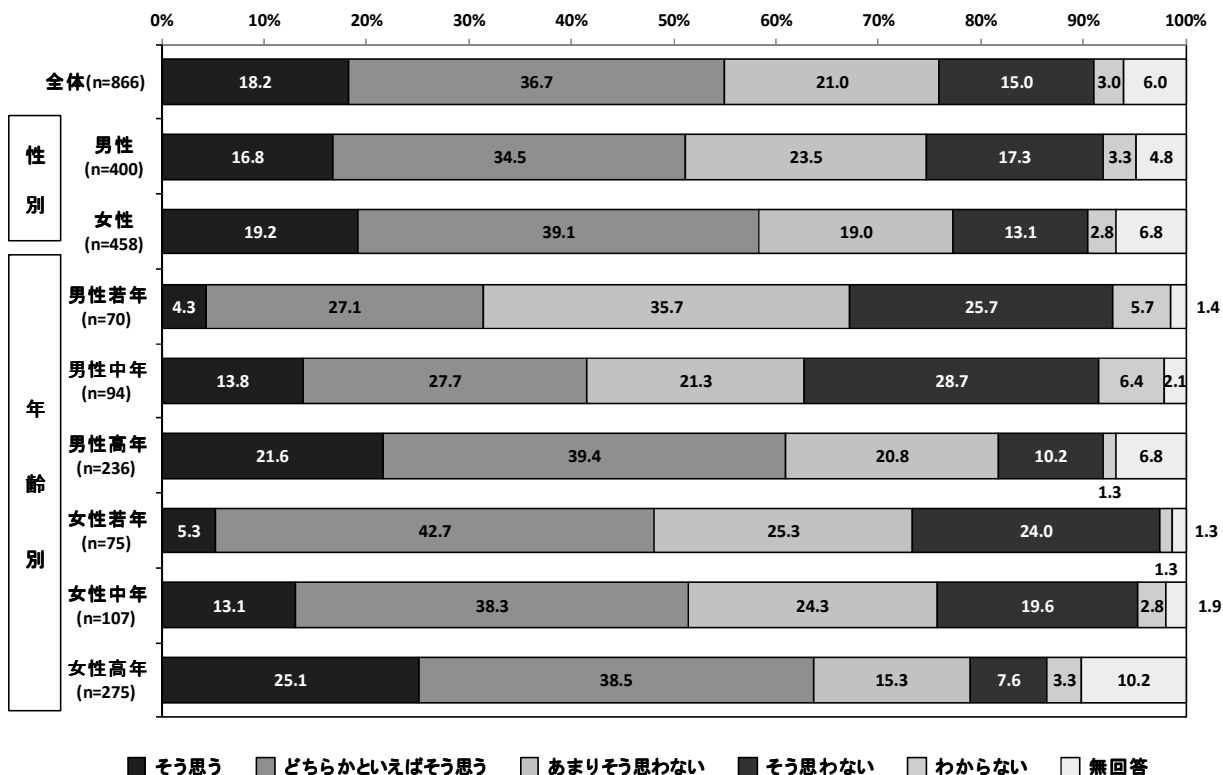
■ ⑨子どもが3歳になるまでは、母親の手で育てるほうがよい ■



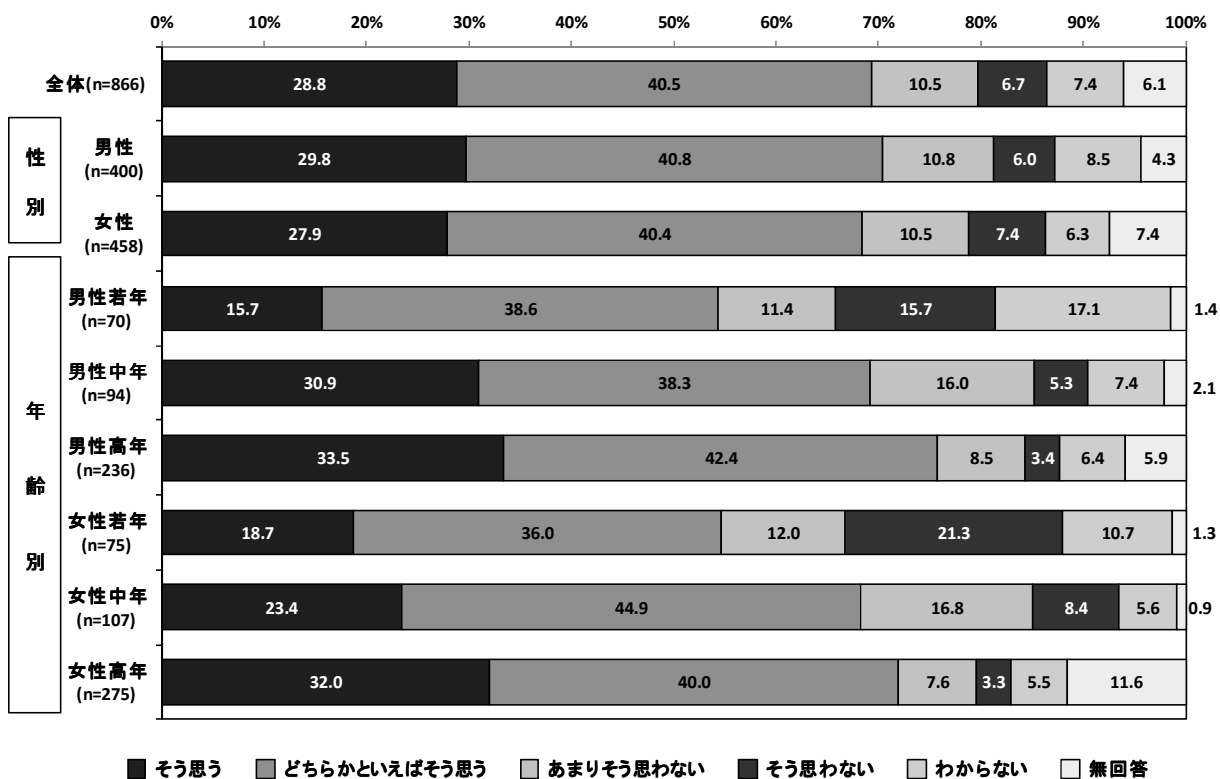
■ ⑩子どもにとっては両親がそろっているほうがよいので、どんな理由があっても離婚は避けたほうがよい ■



■ ⑪子どもが病気になったときは母親がみたほうがよい ■



■ ⑫女性は、子育てに関する本能を生まれつき持っている ■



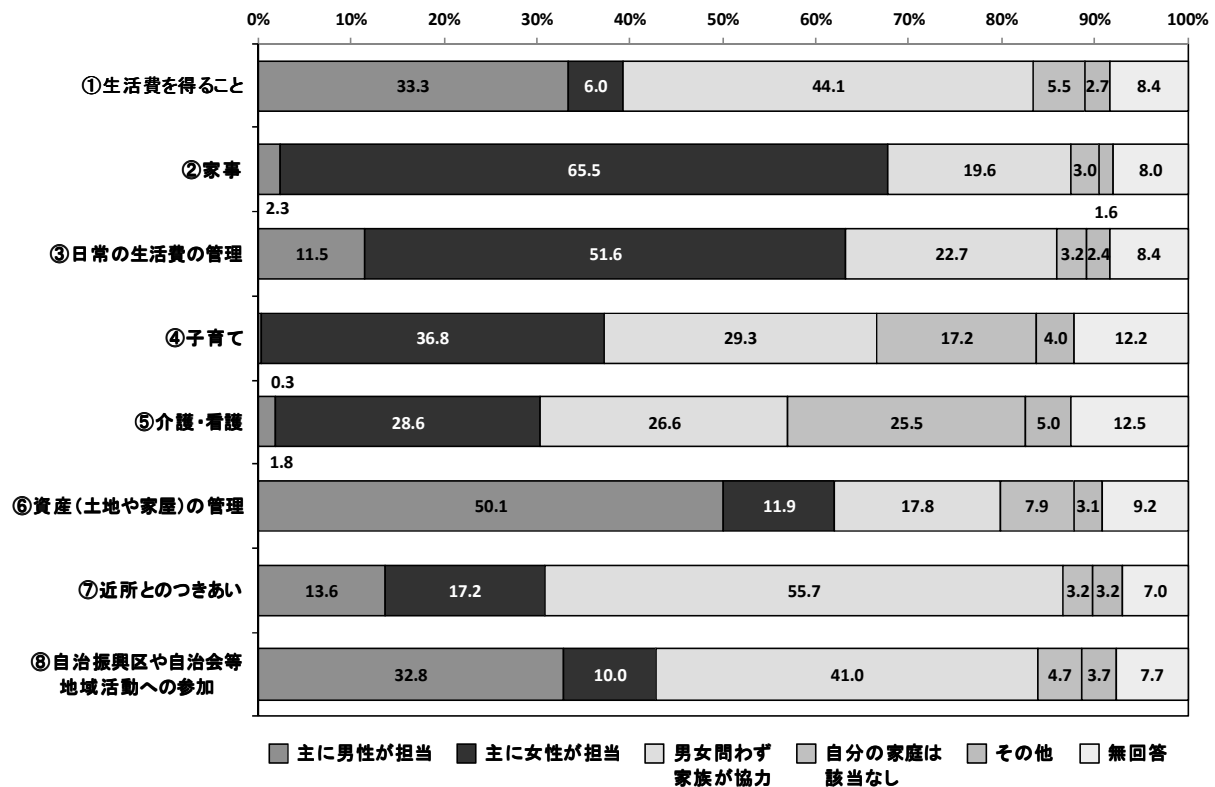
11 家庭内の仕事の担当（問 19）

家庭内の仕事の担当についてみると、「主に男性が担当」するものとして多くあげられているのは、『資産（土地や家屋）の監理』（50.1%）や『生活費を得ること』（33.3%）、『自治振興区や自治会等地域活動への参加』（32.8%）です。ただ、『生活費を得ること』や『自治振興区や自治会等地域活動への参加』については、「男女を問わず家族が協力」がそれぞれ 44.1%、41.0%と 40%超えて最も多く、性別による担当意識は弱いといえます。

「主に女性が担当」するものとして多くあげられているのは、『家事』（65.5%）や『日常の生活費の管理』（51.6%）は半数を超え、女性の担当という意識が根強く残っています。また、女性の担当して『子育て』（36.8%）や『介護・看護』（28.6%）も多くあげられ、「主に男性が担当」と答えた人はごくわずかです。

『近所とのつきあい』は、男性担当、女性担当の割合は拮抗しており、「男女を問わず家族が協力」が 55.7%と半数を超えています。

問 19. あなたの家庭では、次にあげるような家庭内の仕事を、実際にだれが担当していますか。（○印1つずつ）



【属性別特徴】

- 『家事』や『日常の生活費の管理』は、男性よりも女性で女性が担当という意識が強く、男女の協力意識は弱くなっています。
- 『子育て』は、子育ての中心年代である女性若年層で女性が担当という意識が強くなっています。ただ、男女協力度も女性の若年層、中年層で強くなっていることから、女性が主に担当するにしても男性の協力も必要であるという意識がみられます。
- 『生活費を得ること』は、男性で強く意識されていますが、女性の若年層、中年層では男女が協力するという意識が強くなっています。

■ 属性別にみた家庭内の仕事の担当 ■

【女性担当度】

	サンプル数	と生活費を得ること	家事	管理 日常の生活費の	子育て	介護・看護	屋資産の管理 土地や家	い近所とのつきあ	への参加 自治振興区活や動自
全体	866	▲ 27.3	63.2	40.1	36.5	26.8	▲ 38.2	3.6	▲ 22.8
性別	男性	▲ 34.5	58.5	37.0	36.5	22.0	▲ 46.3	▲ 6.3	▲ 30.8
	女性	▲ 20.8	67.3	43.0	36.5	30.8	▲ 31.7	11.7	▲ 15.5
年齢別	男性若年	▲ 44.3	55.7	41.4	38.6	18.6	▲ 21.4	1.4	▲ 22.8
	男性中年	▲ 30.8	60.7	25.5	32.9	24.5	▲ 40.4	▲ 14.9	▲ 40.5
	男性高年	▲ 33.0	58.5	40.3	37.3	22.1	▲ 56.0	▲ 5.0	▲ 29.2
	女性若年	▲ 14.7	74.7	65.3	48.0	28.0	▲ 28.0	9.3	▲ 14.6
	女性中年	▲ 14.9	71.1	51.4	35.5	28.1	▲ 33.7	13.1	▲ 18.7
	女性高年	▲ 25.1	63.6	33.4	33.5	32.3	▲ 32.4	11.6	▲ 14.9

(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

※女性担当度＝「主に女性が担当」－「主に男性が担当」

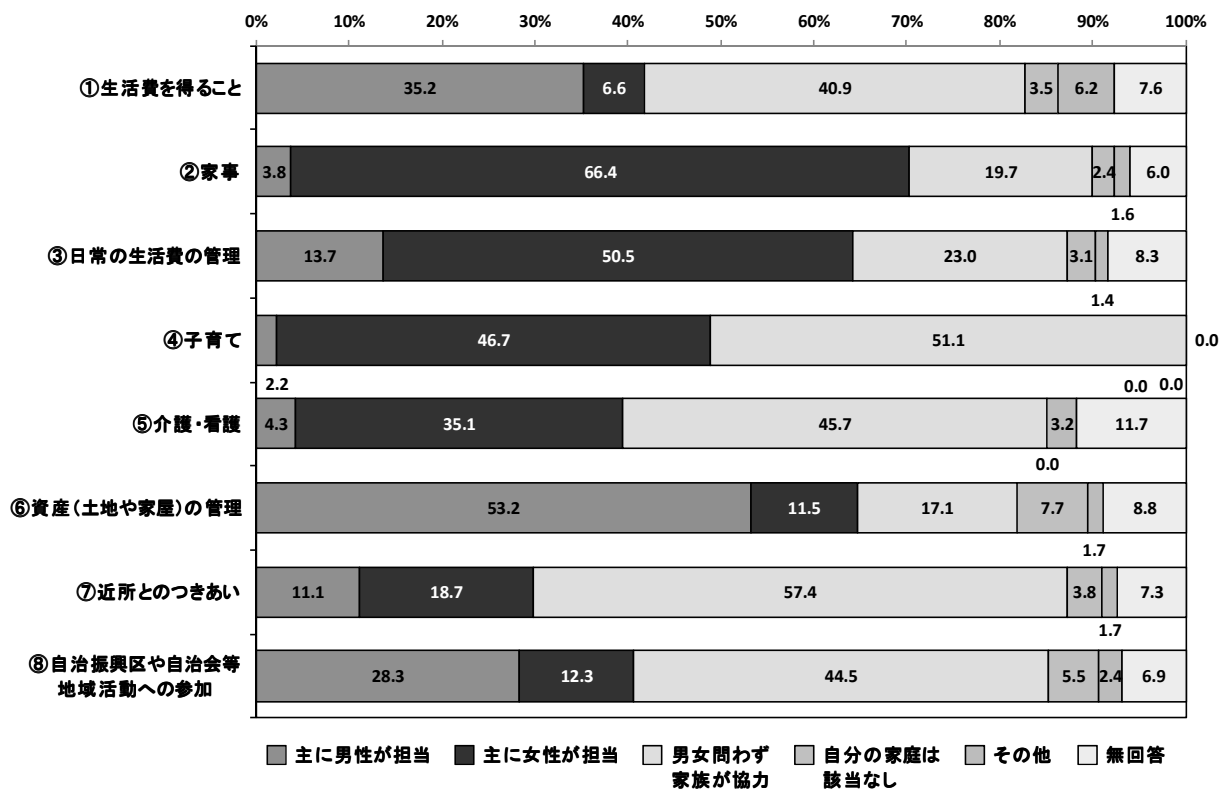
【男女協力度】

	サンプル数	と生活費を得ること	家事	管理 日常の生活費の	子育て	介護・看護	屋資産の管理 土地や家	い近所とのつきあ	への参加 自治振興区活や動自
全体	866	44.1	19.6	22.7	29.3	26.6	17.8	55.7	41.0
性別	男性	44.5	22.3	27.3	27.3	29.0	20.0	57.3	41.3
	女性	43.9	17.5	18.8	31.2	24.5	15.5	54.4	41.0
年齢別	男性若年	47.1	25.7	22.9	28.6	30.0	25.7	48.6	37.1
	男性中年	46.8	21.3	24.5	39.4	29.8	24.5	63.8	44.7
	男性高年	42.8	21.6	29.7	22.0	28.4	16.5	57.2	41.1
	女性若年	75	61.3	18.7	20.0	37.3	17.3	14.7	53.3
	女性中年	107	52.3	22.4	26.2	40.2	27.1	16.8	59.8
	女性高年	275	36.0	15.3	15.6	26.2	25.5	15.3	52.7

(注) **太字** は、全体よりも5ポイント以上大きいもの

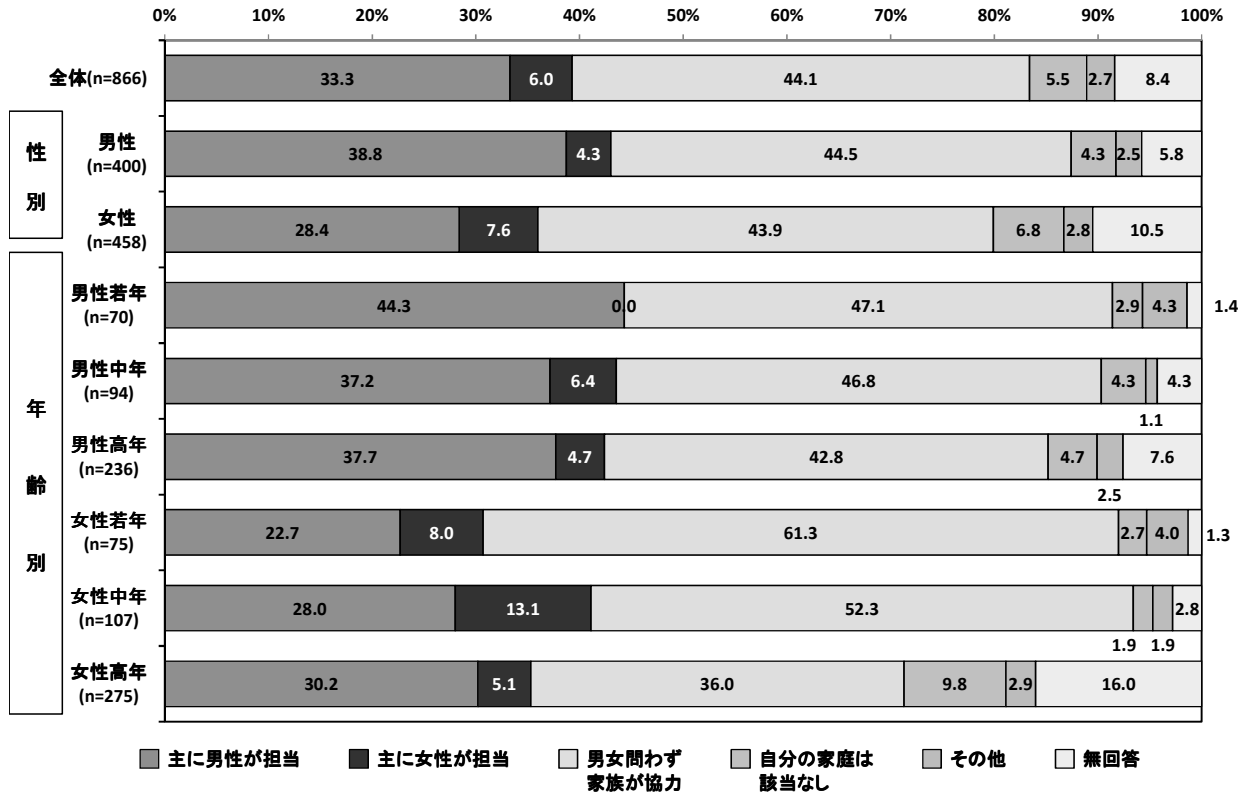
※男女協力度＝「男女問わず家族が協力」

《 参考：前回（平成 23 年）調査結果 》

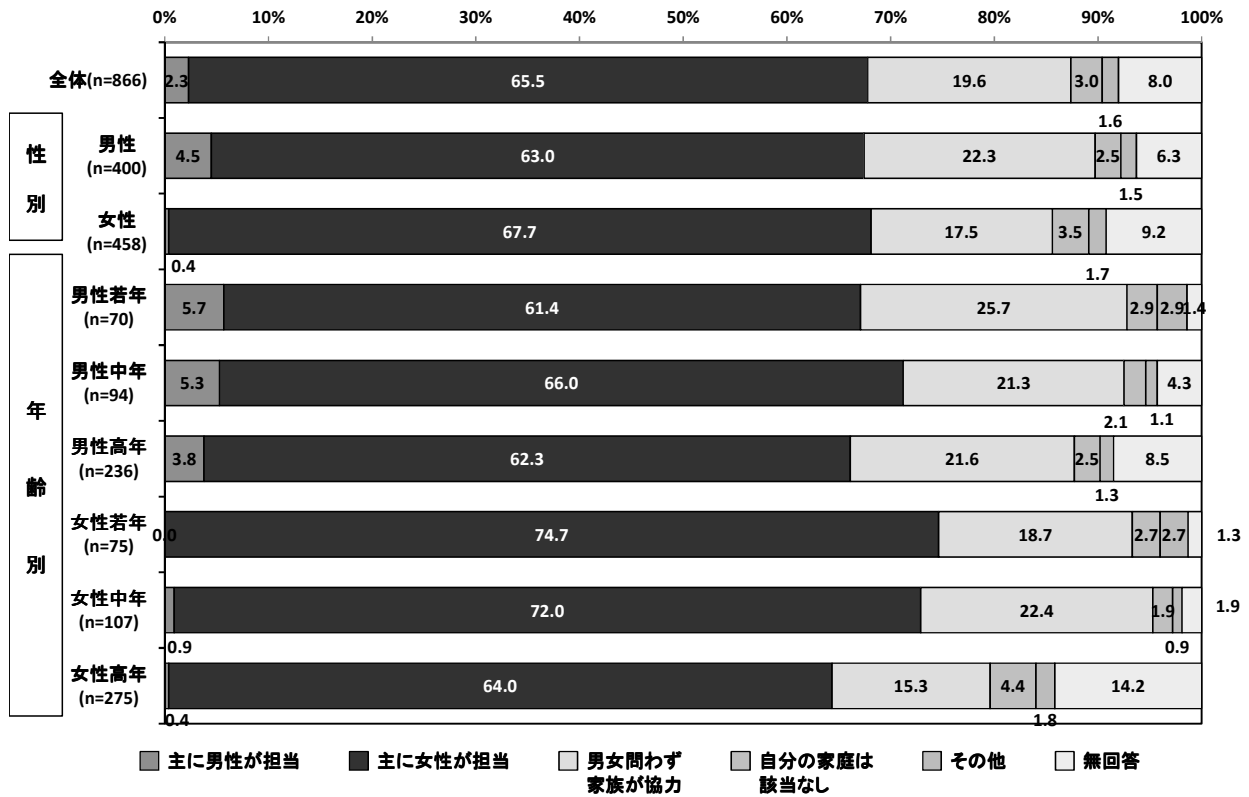


※「④子育て」は18未満の子どものいる人、「⑤介護・看護」は同居家族を在宅介護している人のみ回答

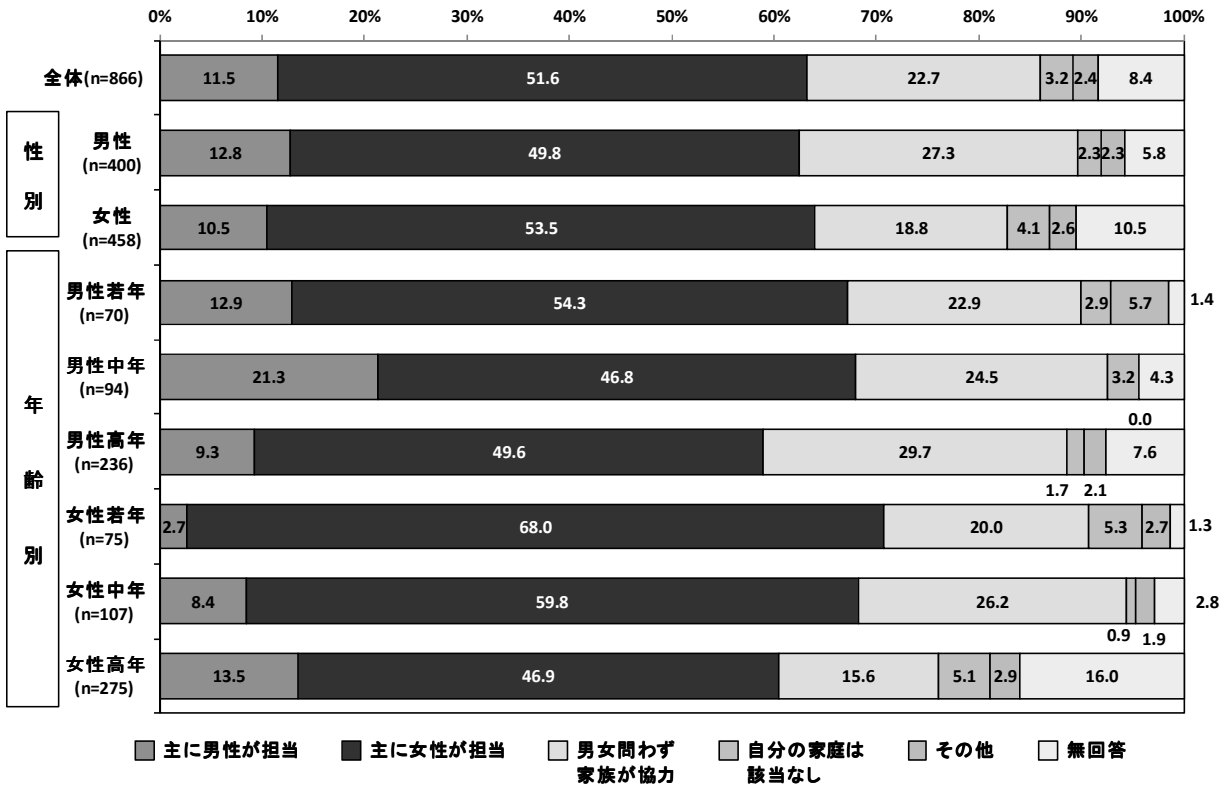
■ ①生活費を得ること ■



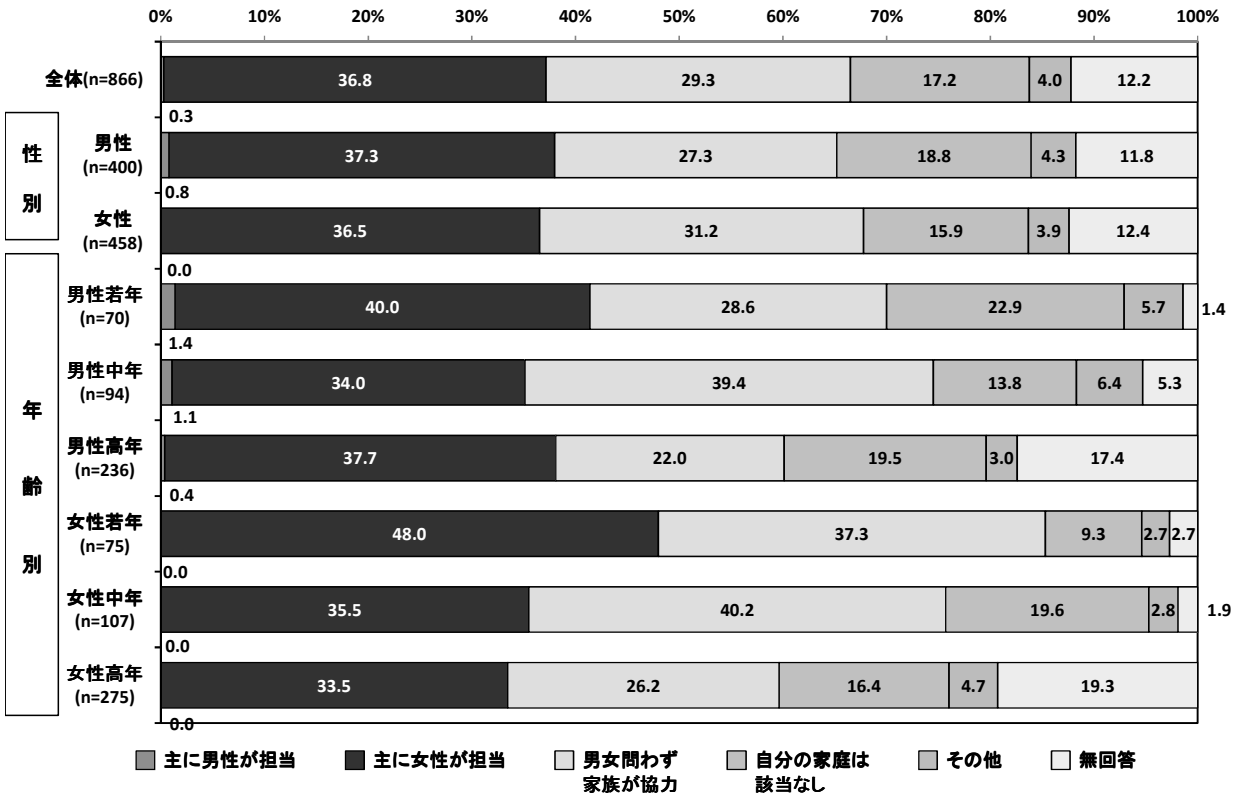
■ ②家事 ■



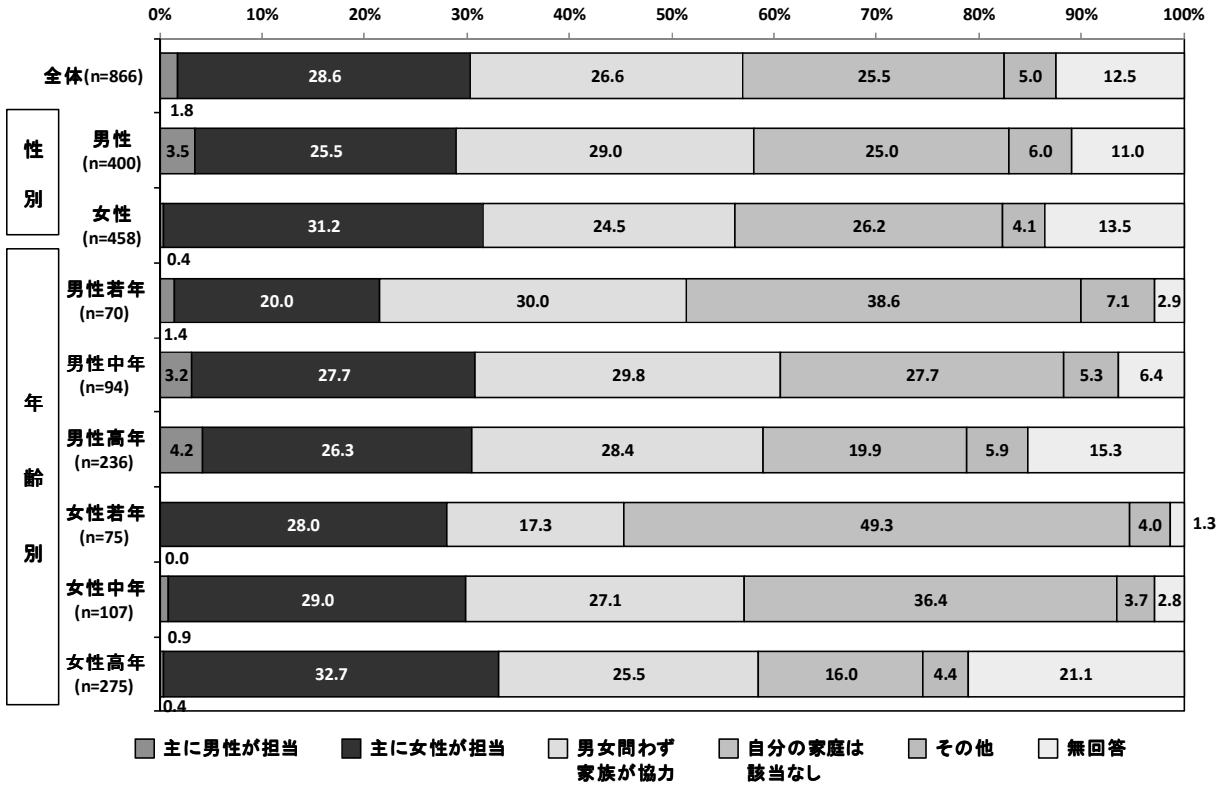
■ ③ 日常の生活費の管理 ■



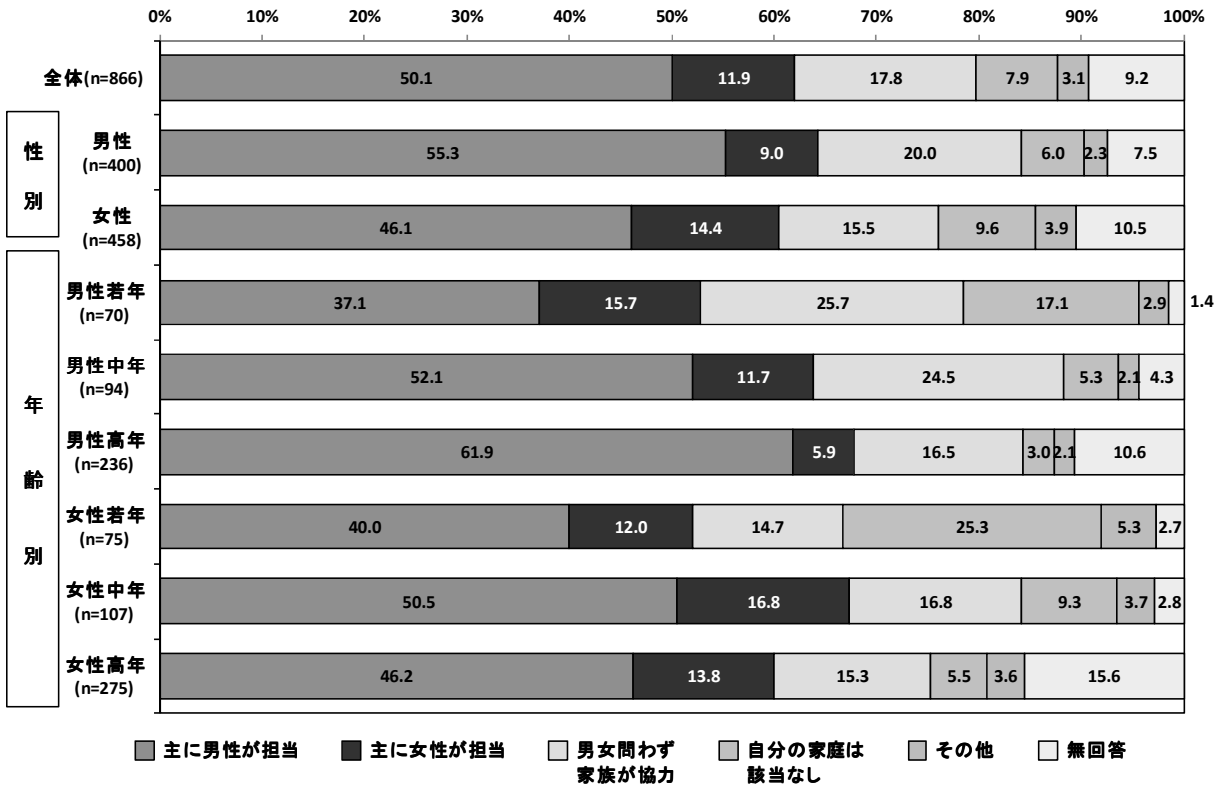
■ ④ 子育て ■



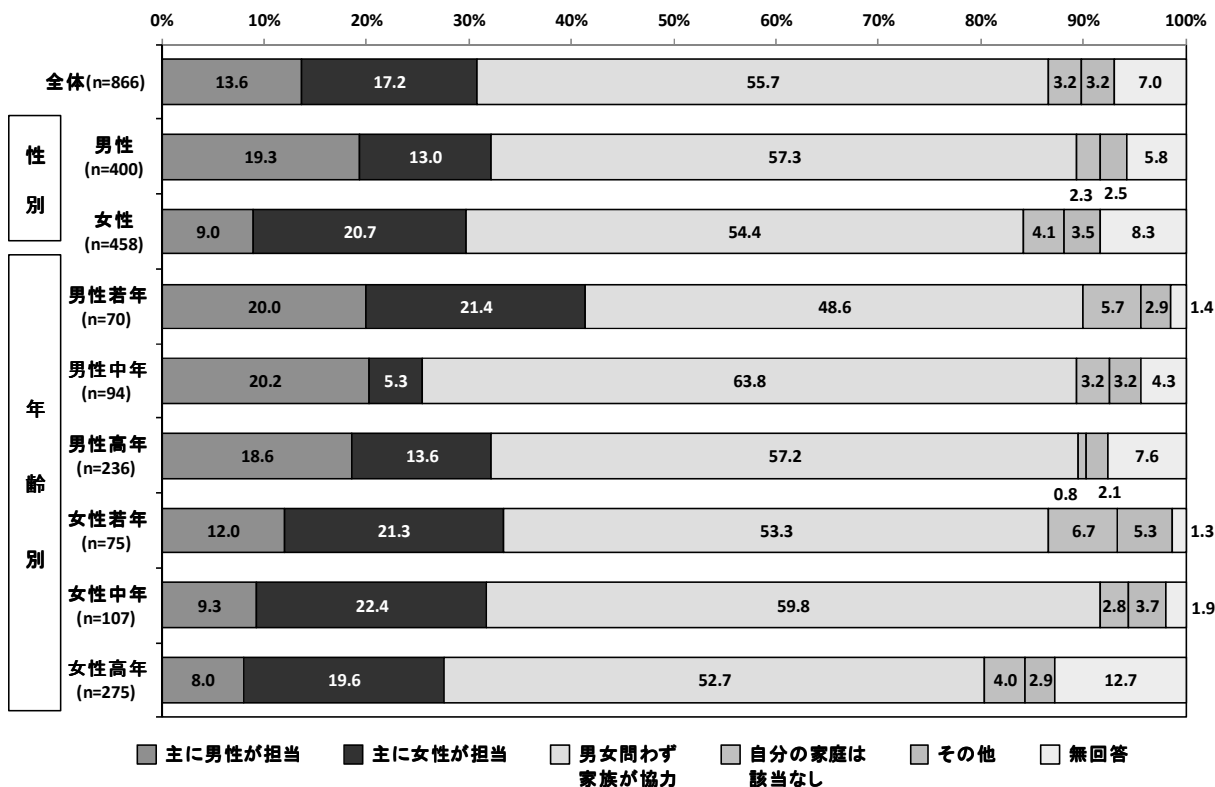
■ ⑤介護・看護 ■



■ ⑥資産（土地や家屋）の管理 ■



■ ⑦近所とのつきあい ■



■ ⑧自治振興区や自治会等地域活動への参加 ■

